

588/

教 授 要 目

付 研究指導要項

昭和 48 年度

小樽商科大学

1. 授業科目履修方法

小樽商科大学教授要目

1. 昭和48年度開講科目

目次

I 授業科目履修方法	1
1 昭和48年度開講科目	1
2 履修方法	5
3 科目試験の受験について	22
II 教授要目	23
1 一般教育科目	23
2 外国語科目	28
3 保健体育科目	40
4 基礎教育科目	43
5 専門教育科目	45
6 教職科目	69
III 研究指導要項	73

# I 授業科目履修方法

## 1. 昭和48年度 開講科目

区分	授業科目	単位	配当年次	担当教官名	備考	
一般 教育 科学 科目	人文科学系	哲学	4	Ⅱ	川村教授	
	心理学	4	Ⅰ	和田助教授		
	歴史学	4	Ⅱ	阿部助教授		
	日本文学	4	Ⅰ	細谷教授		
	英文学	4	Ⅰ・Ⅱ	脇田教授		
	仏文学	4	Ⅱ・Ⅲ	目黒教授		
	社会科学系	社会学	4	Ⅱ	三谷講師	(集中講義) 北海道大学文学部助教授
	社会思想史	4	Ⅰ	外川講師	北海道大学法学部助教授	
	教育学	4	Ⅲ	田中(昭)教授		
	法学(日本国憲法2単位を含む)	4	Ⅰ	{石原(全)講師 青竹講師	(前期) 小樽商科大学短期大学部助教授 (後期)	
政治学	4	Ⅰ・Ⅱ	{小川講師 荒木講師	(前期) 北海道大学法学部教授 (後期) 北海学園大学法学部助教授		
自然科学系	物理学	4	Ⅰ	原田助教授		
自然科学概論	4	Ⅱ	原田助教授			
化学	4	Ⅰ	斎藤教授			
外国語科目	英語	英語 {Ⅰ Ⅱ Ⅲ}	4 4 2	Ⅰ Ⅱ Ⅲ	{備考(1)参照	
	英語以外の外国語	ドイツ語 {Ⅰ Ⅱ}	4 4	Ⅰ Ⅱ	{備考(2)参照	
		フランス語 {Ⅰ Ⅱ}	4 4	Ⅰ Ⅱ	{備考(3)参照	
		中国語 {Ⅰ Ⅱ}	4 4	Ⅰ Ⅱ	{川上教授	
		スペイン語 {Ⅰ Ⅱ}	4 4	Ⅰ Ⅱ	{寺崎講師	
		ロシア語 {Ⅰ Ⅱ}	4 4	Ⅰ Ⅱ	{松本教授	

保健体育科目	体育実技	I II	2	I II	杉山教授 藤江助教授 中川講師	小樽商業高校教諭	
	体育講義		2	II	森岡教授 杉山教授 藤江助教授		
基礎教育科目	経済学概論		4	I	増井教授 藤井教授	(前期) (後期)	
	商学概論		4	I	伊藤教授		
	管理科学概論		4	I	若林助教授		
	数学		4	I	白川助教授		
専門教育科目	統計学		4	II	長谷部教授	(前期)北海道大学 経済学部教授	
	数理統計学		4	III	久次教授		
	経済統計学		4	III・IV	長谷部教授		
	経済原論		4	II	藤井教授		
	経済変動論		4	III	増井教授		
	経済学特殊問題		4	II・III	降旗講師		
	計量経済学		4	III	松田助教授		
	経済史概論		4	II	井上助教授		
	日本経済史		4	III	長谷川助教授		
	農業経済学		4	III・IV	崎浦講師		北海道大学農学部 教授
	社会政策		4	III	吉武教授		
	国際経済論		4	III	池間助教授		
	貿易政策		4	III・IV	麻田教授		
	国際金融論		4	III・IV	足立教授		
	金融経済論		4	III	漆崎助教授		
	銀行論		4	III・IV	漆崎助教授		
	マーケティング		4	II	片桐講師		小樽商科大学短期大学部 助教授
	商業英語		4	III	北村講師		小樽商科大学短期大学部 教授
	保険論		4	III・IV	田村助教授		
証券市場論		4	III	石原(定) 助教授			
証券金融論		4	III・IV	鈴木(満)教授			

専門教育科目	経営学原理		4	II	篠崎助教授	(集中講義)中央大 学商学部教授		
	経営学説史		2	III・IV	中村講師			
	労務管理		4	III	伊藤教授		札幌商科大学講師	
	財務管理		4	III・IV	坂井講師			
	簿記学		4	II	久野教授		小樽商科大学短期 大学部講師	
	原価計算		4	III	久野教授			
	会计学		4	III	石河教授			
	監査論		4	III・IV	石河教授			
	外国書講読		4	III	田中(良)講師			
	管理科学I		4	III	若林助教授			
	管理科学特講I		3	III・IV	浅利講師			(前期)東海大学講師
	" IV		3	III・IV	浅利講師			(後期) "
	機械化会計		6	III	山田助教授			
	応用数学(代数)		6	II	沼田助教授			北海学園大学講師
	" (解析)		6	II	鈴木(輝)講師			
	" (統計I)		6	III	清水川助教授			
	" (特講I)		3	II	山口講師		(前期)北海道大学 工学部講師	
	" (特講II)		3	II	山口講師		(後期) "	
	計算機論I		6	II	樋口助教授		(後期) 小樽商大短期 大学部助教授	
	" II		6	III	戸島助教授			
	憲法		4	II	秋山講師		"	
	行政法		4	III	秋山講師			
	労働法		4	III	加藤助教授		(集中講義)大阪市 立大学法学部教授	
	経済法		2	III・IV	富山講師			
	民法I		4	II	神田助教授		(前期)	
	" II		4	III・IV	菅原講師		(前期)北海学園大 学教授	
商法I		4	III	青竹講師	小樽商科大学短期 大学部助教授			
" II		4	III・IV	石原(全)講師				
国際機構論		4	III・IV	大谷助教授	(後期)			
研究指導		12	III・IV	備考(4)参照				

教 職 科 目	教育原理	4	Ⅲ	田中(昭)教授	「教育学」として開講 北海道教育大学 札幌分校教授 (非常勤講師)
	教育心理学	4	Ⅱ	藤野講師	
	商業科教育法	2	Ⅲ	渡辺講師	
	教育実習	2	Ⅲ・Ⅳ	麻田教授 伊藤教授 久野教授	北海道教育大学 札幌分校教授
	教育史	4	Ⅱ	田中(昭)教授	
	職業指導	4	Ⅲ	石井講師	
	英語(上級Ⅰ)	4	Ⅲ・Ⅳ	武本教授	
	〃(上級Ⅱ)	4	Ⅲ・Ⅳ	永原助教授	
	英語学Ⅰ	4	Ⅲ・Ⅳ	宮岡助教授	
	英文学Ⅰ	4	Ⅰ・Ⅱ	脇田教授	

備考

- (1) 英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教官は次のとおりである。  
脇田教授, 武本教授, 宮岡助教授, 菅原助教授, 永原助教授, 君羅講師, R.O.ウォード外国人教師, J.R.ウェンガー外国人講師。
- (2) ドイツ語Ⅰ・Ⅱの担当教官は次のとおりである。  
小野講師, 津川講師(北海道大学文学部講師), J.M. シュパンナーゲル外国人講師(北海道大学文学部外国人教師)。
- (3) フランス語Ⅰ・Ⅱの担当教官は次のとおりである。  
目黒教授, 中山講師(北海道大学文学部助教授), 大賀講師(武蔵女子短大助教授)。
- (4) 研究指導担当教官は次のとおりである。(学科別・職名別・アイウエオ順)  
(経済学科)  
麻田教授, 足立教授, 長谷部教授, 藤井教授, 増井教授, 吉武教授, 池間助教授, 井上助教授, 漆崎助教授, 松田助教授, 長谷川助教授。  
(商業学科)  
石河教授, 伊藤教授, 久野教授, 斎藤教授, 鈴木教授, 石原助教授, 篠崎助教授, 田村助教授, 和田助教授。  
(管理科学科)  
清水川助教授, 戸島助教授, 沼田助教授, 山田助教授, 若林助教授。  
(法学関係)  
加藤助教授, 神田助教授, 青竹講師。

2. 履修方法

学生は4年間在学し、次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

- (1) 単位修得については、各自が所属している、または所属しようとする学科・課程の卒業所要単位一覧表が第1表から第14表に掲げられているから、それぞれの表と「1」の昭和48年度開講科目とで本年度の履修科目を検討し履修届を提出しなければならない。

なお、表中の単位数は最低所要の単位数を示したものであるから履修の検討には十分な注意を必要とする。

- (2) 第1表から第5表までは昭和46年度以降入学者に適用、第6表から第12表までは昭和42年度～昭和45年度入学者に適用されるもので、それぞれの学科・課程に分かれているから学科・課程を決めた場合に、それぞれの表が適用される。
- (3) 文学の単位は昭和45年度以前入学者については日本文学・外国文学のうち、いずれか1科目だけが卒業所要単位に算入される。昭和46年度以降入学者については、日本文学のほか、外国文学のうちいずれか1科目が卒業所要単位に算入される。
- (4) 昭和42年度以降入学者の英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)は、1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修である。
- (5) 英語以外の外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語)は、いずれか1か国語を選択必修とし、1年次、2年次とも毎週4時間4単位ずつ計8単位を履修しなければならない。
- (6) 保健体育科目の実技2単位については、昭和42年度以降入学者は1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ 、2年次隔週に2時間2単位の $\frac{1}{3}$ 計2単位、講義については、2年次前期毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。ただし、昭和47年度以降入学者については、講義の一部が1年次に繰上げて行なわれる。
- (7) 「教育原理」は履修学生の希望により「教育学」に振替えることができる。
- (8) 「経営学原理」は昭和43年度以前入学者は、「経営学総論」と読み替え

る。

(9) 英語（上級Ⅰ）、英語（上級Ⅱ）、英語学Ⅰ、および英文学Ⅰは高等学校英語2級普通免許状取得のための授業科目であるが、課外科目（卒業所要単位に算入されない科目）として履修できる。また、英文学Ⅰは一般教育科目の英文学と同じ講義であり、履修学生の希望によりどちらかの単位とすることができる。

(10) 研究指導を履修する学生は所属する学科・課程の区分を問わず各自の志望する研究指導を毎週3時間、3年次から2か年継続授業で12単位（卒業論文を含む）を履修しなければならない。この12単位は昭和42年度～昭和45年度入学者にあっては、それぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目80単位に、また、昭和46年度以降入学者にあっては、それぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目76単位に含まれるものである。

研究指導を履修しない学生（いわゆるノンゼミと称する学生）は研究指導12単位分をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。また、商業教員養成課程に所属する学生にあっては経済学科・商業学科・管理科学科および法学関係の専門教育科目によって充足しなければならない。

なお、昭和42年度～昭和44年度入学者で管理科学科に所属する学生の研究指導12単位は必修である。

(11) 昭和42年度以降入学者で商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で高等学校2級普通免許状（商業・英語）の取得を希望する者は、第13表（商業）ならびに第14表（英語）の単位をそれぞれ取得しなければならない。なお、これらの単位は卒業所要単位以外の単位である。

(12) 昭和41年度以前の入学者の履修方法については、昭和45年度以前の教授要目を参照すること。

(13) 単位の互換制度について

学則にも規定されていますが、昭和48年度から北海道大学経済学部で授業科目を履修することが認められることになりました。〔この場合の身分は北大の特別聴講学生となる。〕

その要領は次のとおりです。

(ア) 聴講出願対象者

学則(1)科目履修細則第4条に規定する。〔1, 2年次配当科目55単位以上〕単位数を修得した48年4月現在の4年次生

(イ) 聴講科目

聴講科目	単位	担当教官	開講時期
経済学説史	4	石垣	前期
北海道経済史	4	林	〃
経営史	4	渡辺	後期
経営立地論	4	大爺	〃

以上のうち3科目・12単位迄は卒業に必要な専門教育科目の単位に算入する。

1科目につき20名が限度。

(ウ) 聴講期間

昭和48年4月～昭和49年3月の1年間を限度とする。

(エ) 聴講料

不要。

## 2-1 昭和46年度以降入学者

イ 一般教育科目，外国語科目，保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第1表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区 分	単位数	備 考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義，体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上
合 計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち，外国文学の単位については，そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系		社会科学系		自然科学系		基礎教育科目	
授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
哲学	4	社会科学概論	4	物理学	4	経済学概論	4
倫理学	4	社会学	4	自然科学概論	4	商学概論	4
心理学	4	社会思想史	4	化学	4	管理科学概論	4
歴史学	4	教育学	4	生物学	4	数 学	4
日本文学	4	法学(日本国憲法2単位を含む)	4				
英文学	4	政治学	4				
独文学	4						
仏文学	4						
中国文学	4						
露文学	4						
1科目4単位以上		1科目4単位以上		1科目4単位以上		2科目8単位以上	
7科目28単位以上							

ロ 専門教育科目の履修方法

第2表 経済学科

区 分	単位数	内 容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学，経済原論，経済政策，経済史概論，国際経済論，金融経済論のうち，いずれか3科目を含める。
商業学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理，会计学，応用数学(代数)，応用数学(解析)，民法Ⅰ，民法Ⅱ，商法Ⅰ，商法Ⅱのうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は，経済学科の科目について，さらに12単位を履修しなければならない。

第3表 商業学科

区 分	単位数	内 容
商業学科科目	36	「研究指導」を除いた科目
経済学科科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は，商業学科の科目について，さらに12単位を履修しなければならない。

第4表 管理科学科

区 分	単位数	内 容
管理科学科科目	36	「研究指導」を除いた科目
経済学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目 2. 28単位のなかに、統計学、経済原論、経営学原理、会計学のうちいずれか2科目を含める。
商業学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

第5表 商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
専門教育科目 (経済学科、商業学科、管理科学科、法学関係の全科目)	44	1. 「研究指導」を除いた科目 2. 44単位のなかに経済原論、統計学、マーケティング、商品学、証券市場論、経営学原理、簿記学、会計学、計算機論Ⅰ、事務機械化、民法Ⅰ、商法Ⅰのうちいずれか6科目(24単位)以上を含める。
教職科目	20	教育原理、教育心理学、商業科教育法、教育史、教育実習、職業指導を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、経済学科、商業学科、管理科学科、法学関係の各科目から、さらに12単位を履修しなければならない。

2—2 昭和42年度～昭和45年度入学者

イ 一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第6表 経済学科・商業学科および管理科学科

区 分	単位数	必 修 科 目	
一般教育科目	人文科学系	12	3科目以上
	社会科学系	8	2科目以上
	自然科学系	8	2科目以上
	計	28	7科目以上
外国語科目	18	英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目	
保健体育科目	4	実技、講義	
基礎教育科目	16	経済学概論、商学概論、管理科学概論、数学	
合 計	66		

備考 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち、日本文学および外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。  
2. 高等学校教諭商業、英語二級普通免許状の取得を希望し、それに必要な単位を取得した者が、当該免許状の申請をする場合には基礎教育科目のうち「経済学概論」を社会科学系の、「数学」を自然科学系の一般教育科目の単位に充てることができる。



第7表 商業教員養成課程

区分	単位数	必修科目
一般教育科目	人文科学系	12 3科目以上
	社会科学系	12 経済学概論, 法学(日本国憲国2単位を含む)を含め3科目以上
	自然科学系	12 数学を含め3科目以上
	計	36 9科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III) 英語以外の外国語(5科目)のうち, いずれか1科目
保健体育科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	8	商学概論, 管理科学概論
合計	66	
備考 一般教育科目(人文科学系)のうち, 日本文学および外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。		

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系		社会科学系		自然科学系		基礎教育科目	
授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
哲学	4	社会科学概論	4	物理学	4	経済学概論	4
倫理学	4	社会学	4	自然科学概論	4	商学概論	4
心理学	4	社会思想史	4	化学	4	管理科学概論	4
歴史学	4	教育学	4	生物学	4	数学	4
日本文学	4	法学(日本国憲法2単位を含む)	4				
外国文学	英文学	4	政治学	4			
	独文学	4					
	仏文学	4					
	中国文学	4					
露文学	4						
3科目	12単位	2科目	8単位	2科目	8単位	全科目必修	
		7科目	28単位			4科目	16単位

専門教育科目の履修方法

第8表 経済学科

区分	内容	単位数	
必修科目	統計学, 経済原論, 経済史概論, 経営学原理, 会計学, 民法I, 商法I	28	
選択科目	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	24
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目		
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目		
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目		
研究指導		12	
計		80	
卒業所要単位		146	
備考 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。			

[注] 13頁から18頁に記載されている別表第1とは「学園生活の手びき」に記載されている学則第11条の別表第1を示す。

第9表 商業学科

区	分	内	容	単位数
必	修	科	目	36
			マーケティング, 経営学原理, 労務管理, 簿記学, 会計学, 統計学 経済原論, 民法Ⅰ, 商法Ⅰ	
選	科	目	「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	20
			商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	
			「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	12
			経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	
			管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	
法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	12			
研究指導				
計				80
卒業所要単位				146
備考				
研究指導を履修しない者は, 商業学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。				

第10表 管理科学科

a 管理科学コース (昭和42~44年度入学者)

区	分	内	容	単位数
必	修	科	目	20
			研究指導, 統計学, 経済原論	
選	科	目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	36
			管理科学特講Ⅰ, 管理科学特講Ⅱ 管理科学特講Ⅲ, 管理科学特講Ⅳ 応用数学(代数), 応用数学(解析) 応用数学(統計Ⅰ), 応用数学(統計Ⅱ), 応用数学特講Ⅰ, 応用数学特講Ⅱ, 計算機論Ⅰ, 計算機論Ⅱのうちから	
			「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	8
			経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	
			「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	
			商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	
「研究指導」を除いた科目	16			
法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目				
「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	12			
経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目				
計				80
卒業所要単位				146
備考				
1. 研究指導について「管理科学研究指導Ⅰ」または「管理科学研究指導Ⅱ」を履修しなければならない。				
2. 「管理科学研究指導Ⅰ」の履修者は「管理科学Ⅰ」の, 「管理科学研究指導Ⅱ」の履修は「管理科学Ⅱ」の単位を修得することができない。				

b 管理科学コース (昭和45年度入学者)

区	分	内	容	単位数			
選	択	必	修	科	目	統計学, 経済原論, 経営学原理, 会計学のうちから	8
選	択	科	目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	「研究指導」を除いた科目	36	
				経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	24	
				商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目		
				法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	「研究指導」を除いた科目		
				研究指導		12	
計				80			
卒業所要単位				146			
備考							
1. 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。							
2. この表は昭和45年度入学者に適用する。							

c 機械化会計コース (昭和42~44年度入学者)

区	分	内	容	単位数		
必	修	科	目	研究指導, 統計学, 経済原論, 簿記学, 会計学	28	
選	択	科	目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	機械化会計, 事務機械化, 情報処理, 計算機論Ⅰ, 計算機論Ⅱ, 計算機論Ⅲ, 管理科学特講Ⅰ, 管理科学特講Ⅱ, 管理科学特講Ⅲ, 管理科学特講Ⅳのうちから	24
				「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	12	
				経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目		「必修科目」および「研究指導」を除いた科目
				商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目		「必修科目」および「研究指導」を除いた科目
				法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	「研究指導」を除いた科目	
商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	16				
計				80		
卒業所要単位				146		
備考						
1. 研究指導については, 「機械化会計研究指導」を履修しなければならない。						
2. この表は昭和42年度生から適用する。						

d 機械化会計コース (昭和45年度入学者)

区 分	内 容	単位数
必修科目	統計学, 経済原論, 簿記学, 会计学	16
選択科目	管理科学科目 (別表第1の(5)のハに掲げる授業科目)	24
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	28
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイに掲げる授業科目)	
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロに掲げる授業科目)	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニに掲げる授業科目)	
研究指導	12	
計		80
卒業所要単位		146
備考	1. 研究指導を履修しない者は, 管理科学の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 2. この表は昭和45年度入学者に適用する。	

第11表 商業教員養成課程

区 分	単位数	必修科目
専門教育科目 (経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係 科目の全科目)	48	統計学, 経済原論, 経営学原理, 簿記学, 会计学, 民法I, 商法I
教職科目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習, 職業指導
研究指導	12	
計	80	
卒業所要単位	146	
備考	1. 研究指導については, 経済学科研究指導・商業学科研究指導・管理科学研究指導I・管理科学研究指導II・機械化会計研究指導および法学関係研究指導のうちいずれかひとつを履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科および法学関係の科目について, 「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。	

第12表 商業教員養成課程

区 分	科目数等	単位数	必 修 科 目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	3 科目	12
	自然科学系	3 科目	12
	計	9 科目	36
外国語科目	英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)を含め2カ国語	18	英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	2 科目	8	商学概論, 管理科学概論
専門教育科目		60	統計学, 経済原論, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 民法Ⅰ, 商法Ⅰ
教職科目	6 科目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育実習, 教育史, 職業指導
卒業所要単位		146	
備考 専門教育科目のうち必修科目以外の科目の履修は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係科目の全科目から履修することができる。			

第13表 商業科教員免許資格取得希望者(昭和42年度以降入学者)

区 分	単位数	必 修 科 目
一般教育科目 (社会科学系)		法学(日本国憲法2単位を含む)
教職に関する 専門科目	16	教育原理4単位, 教育心理学4単位, 商業科教育法2単位, 教育実習2単位, 教育史4単位
教科に関する 専門科目	4	職業指導
合 計	20	
備考 この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので, それぞれの学科の卒業所要単位のほかに上記の単位数を修得しなければならない。		

第14表 英語科教員免許資格取得希望者(昭和42年度以降入学者)

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
一般教育科目 (社会科学系)		法学(日本国憲法2単位を含む)	
教科に関する 専門科目	32	英語(上級Ⅰ), (上級Ⅱ)} " (上級Ⅲ), (上級Ⅳ)} 12単位 英語学Ⅰ, 英語学Ⅱ } 英文学Ⅰ, 英文学Ⅱ } 16単位	商業英語 4単位
教職に関する 専門科目	17	教育原理4単位, 教育心理学4単位, 英語科教育法3単位, 教育実習2単位, 教育史4単位	
合 計	49		
備考			
1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし, 商業教員養成課程の学生は, 教科に関する専門科目の単位数と, 教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。			
2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は, 13表, 14表双表の場合に併合できる。			

### 3. 科目試験の受験について

定期試験（前期，後期）およびこれに準ずる試験を受験する場合あらかじめ受験届を提出し，次の注意事項を厳守して，不利益をうけることのないよう十分留意してください。

#### ★受験に際しての注意事項（科目試験実施要項の要約）

1. 指定された席に着席すること。（指定の席は，受験届の提出により決定され，また試験開始5分前には着席し，待機すること。）
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。
3. 試験時刻におくれた者は原則として受験できない。ただし，20分以内の遅刻者は，事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了10分前以後は退場できない。
6. 教科書，参考書，ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め，机の中にそれらを入れないこと。
7. 教科書，参考書，ノートなどの参照を許された試験においては，それらの貸借を禁止する。受験生の間で，貸借のあった場合は，それを不正行為とみなす。
8. 配布された答案用紙は必ず提出し，持ち帰ることのないこと。
9. 試験場において，私語，その他いやしくも疑惑を招くような行為のないよう特に留意し，厳正な態度で受験すること。
10. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

以上

## II 教授要目

### 1 一般教育科目

#### 哲 学

教授 川村三千雄

- 一 哲学の課題
- 二 哲学と常識及び日常性
- 三 哲学と伝統
- 四 無知の知と愛知
- 五 哲学の始源
- 六 懐疑と不安
- 七 近代的精神
- 八 理性の問題
- 九 自然と人間
- 十 現代の哲学

#### 心 理 学

助教授 和田 完

行動の科学としての現代心理学の特質を理解してもらうことに主眼を置く。まず生活体の行動を研究対象とすることの意義を論じ，そこから派生する心理学の方法や，他の生物科学，社会科学との関連を問題とする。次に，動機づけ，知覚，学習等の個々のトピックに触れ，心理学上の一般法則や構成概念を説明する。これらはいずれも実験心理学から得られる情報であるが，最後に実験的手法から離れ，社会心理学的視野から人間の行動を概観する。そこでは特にパーソナリティへ焦点が合わされよう。

#### 歴 史 学

助教授 阿部 謹也

歴史研究とは我々の生活現実の理知的認識作業の一環として営まれるものである。生活者がとらえる生活現実のひろがりは一方で地域に沈潜し，他方で世界史に連なってゆかざるをえない。一地域に生きる人間の生活が同時に世界史のなかに位置づけられている，ということの自覚は単に既成の理論か

ら与えられるものではなく、各個人が自らの生活現実を深く掘下げるところにしか生まれまいだろう。

第一部においては、近代歴史学成立以前において人々がこうした問題をどのようにとらえてきたのかを歴史的思惟と非歴史的思惟との相克の問題として扱い、近代歴史学成立以後の社会諸科学が同様な問題を合理的認識作業としてどのように営んできたのかをみる。

第二部では、こうした理解のうえにたつて、ひとつの問題にしぼり、「研究」のあり方について具体的な例を示す。本年度は国家論（主として封建国家論）を扱う。

#### I 歴史学とは何か

##### 歴史的思惟方法の歴史的展開

1. ユダヤ教・原始キリスト教における歴史的思惟
2. ギリシャ・ローマにおける歴史的思惟
3. ヨーロッパ中世における歴史的思惟
4. 日本における歴史的思惟と非歴史的思惟の相克

##### 近代歴史学の成立

1. 啓蒙史学とその批判者
2. 19世紀ドイツにおける近代歴史学の成立
3. 歴史学派経済学とその批判者
4. マルクス経済史学の形成とその批判者

#### II 国家論

1. 啓蒙史学における国家と社会
2. 19世紀における国家論の展開
3. 1920～30年代における国家論
4. 第二次大戦以後における国家論の展開
5. 歴史研究における方法の問題としての史料批判と理論について

#### 日本文学

教授 細谷直樹

作品を読み取るとは、いったいどういうことなのか。作者によって生み落され、読者の前に置かれた「もの」として作品を考えず、作られ、読まれる「はたらき」として作品を捉えたら、すなわち、作品は実体として存在する

ものではなく、作用として存在するのだと仮定したら、伊勢物語も源氏物語も、万葉集も新古今集も、これまでとはかなり異ったすがたで浮び上らないか。今年度は最も日本的な文学とされる俳句をこの仮定に基づいて眺めてみたい。

教科書、瀬原退蔵校訂「去来抄・三冊子・旅寝論」（岩波文庫）

#### 英 文 学

教授 脇田 勇

テキスト マルガン&デイヴィン著 成田成寿訳  
イギリス文学史 ¥800 八潮出版社

(参考書)

*The Oxford Companion to English Literature*

Compiled by Sir Paul Harvey, Oxford Univ. Press

*The Concise Cambridge History of English Literature*

by George Sampson, Cambridge Univ. Press

英米文学辞典 斎藤 勇編 研究社

イギリス文学史 斎藤 勇著 //

#### フランス文学

教授 目黒士門

フランス文学の作品講読を行なう。受講者はフランス語I修了程度のフランス語学力を必要とする。

〔前期〕用書 アルベール・カミュ『異邦人』（古賀照一・杉山毅編、第三書房）¥480

〔後期〕ラブレール『ガルガンチュワとパンタグリュエル』より（用書未定）

社会学（集中講義）4単位 非常勤講師 三谷鉄夫

87頁に記載。

（北海道大学文学部助教授）

社会思想史

非常勤講師 外川継男

（北海道大学法学部助教授）

本年度の社会思想史は、テーマをしぼって19世紀初頭からロシア革命にい

たるロシアの社会思想史を扱う。従来の西ヨーロッパ中心の社会思想史と異なり、それらの諸思想をロシアがいかに摂取したかは、わが国と対比させて考えるものを含んでいると思われる。「ロシアとヨーロッパ」、「ロシア・インテリゲンツィア」、「ゲルツェンのロシア的社会主義」、「バクーニンのアナチズム」などが中心として取り上げられよう。参考文献の類は授業のはじめに解説する。

## 教育学 教授 田中昭徳

- I 今日所謂「教育危機」の状況とその問題点
- (1) 経済成長・技術改革と「後期中等教育の完成」——経済成長技術改革が学校教育に及ぼすインパクト
  - (2) 新たな身分制としての「学歴」
  - (3) 今日の「学校教育」がもたらす人間疎外
  - (4) 「教育」とは何か、またそれは誰のもののためなのか？
- II 近代教育制度の成立過程とそれを支えた思想
- (1) 農耕時代とルソーの教育論
  - (2) マニュファクチュアラーとアダム・スミス、J.H. ペスタロッチの教育論——強制的民衆教育の思想とその実現——
  - (3) 中世大学とナポレオンの「帝国大学制度」——国家権力による教育統制——
  - (4) 近代的大学の典型としてのベルリン大学の成立と中等教育制度の整備
  - (5) アメリカ合衆国における6・3・3・4の発展とその民主主義的意義
  - (6) 戦後におけるわが国の教育改革と教授技術
- III わが国における教育制度、学校法規、教育行財政の現状と問題点について
- IV 経済計画と教育計画——再び「教育とは何か」を問う

## 法学 (日本国憲法) (前期) 非常勤講師 石原全 (2単位を含む) (小樽商科大学短期大学部助教)

前期は、法思想史を中心として講ずる。法につきいかなる考えが存在していたかにつき考察するとともに、簡単に法の諸制度に触れる。

## 法学 (日本国憲法) (後期) 講師 青竹正一 (2単位を含む)

後半は、専門科目としての民法、商法、行政法、労働法、経済法などを履習するうえでの予備的知識を与えることを目的として、具体的事例をとりあげて法の特質、法の解釈の性質、裁判・判例とはどのようなものであるかなどについて考えて行きたいと思う。

教科書・参考書は講義の初めに紹介する予定である。

## 政治学 (前期) 非常勤講師 小川晃一 (北海道大学法学部教授)

(後期) 非常勤講師 荒木俊夫  
(北海学園大学法学部助教)

## 物理学 助教 原田稔

古典力学、相対性理論、電磁気学、量子論の基本的な考え方の紹介を試みる。講義は原島 鮮著「物理学序説」(学術図書出版社、600円)を用いて行なう。

## 自然科学概論 助教 原田稔

個別科学の紹介ではなく、自然科学のアプローチの基本的特徴の説明を主として物理学という具体例を通して試みる。テキストは用いない。

## 化学 教授 斎藤要

化学は一つの教育体系をもった学問であるが、その体系は化学を専攻する学生にとって都合よくできているようである。教養過程の化学は、この体系を希釈したり、あるいは一部を拡大したものであるが、本年度は基礎化学部門として、化学の本性とか対象を認識してゆく科学方法論と原子、分子などに関する基礎的な仮説とか法則を唯物論的立場より検討し、さらに応用化学部門として技術革新に対応する石油化学の実態と、その発展がもたらす諸問題などについて述べたいと思う。なお、教科書は使用しないが、参考書は必要に応じて紹介し、またおりをみて実験を行なう。



## 2 外国語科目

### 英語

#### (A) 英語履修方法

- (1) 英語の授業は、教室内における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)
- (2) 昭和42年度以降入学者の英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。(学則第10条および第11条別表第1の(2)参照)
- (3) 昭和47年度の英語クラス配置および教科の種別は別表の通りである。
- (4) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1, 2, 3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。0は文学作品の講読。1は評論、伝記等の文学作品以外の講読で、2は会話作文である。1ケタ目の1, 2, 3……はクラス別を示す。
- (5) 基準年次に配当されているクラスの選択は自由である。しかし、1年次生は文学作品とその他の講読のうちからいずれか2単位のほかに、他のクラスの講読か会話いずれか2単位合計4単位、2年次生は同じく講読2単位と他のクラスの講読2単位合計4単位、3年次生はいずれのクラスでもよいから2単位を選択履修することになる。
- (6) 履修する学生は別表と「教授要目」をよく読み、自主的にクラスを選択すること。
- (7) 履修登録の方法はカードに希望するクラス名を書き込み、学生課の窓口へ提出するというやり方になるが、その詳細については別途指示する(学生課からの掲示に注意)。なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履習届」には、この登録の結果を記入すること。

#### (B) 別表 (昭和48年度クラス配置表)

講 学 作 品	E 101	脇 田	E 201	君 羅	E 301	君 羅
	E 102	永 原	E 202	永 原	E 302	脇 田
	E 103	脇 田	E 203	ウォード	E 303	ウォード
	E 104	君 羅	E 204	君 羅		
	E 105	永 原	E 205	永 原		
			E 206	ウォード		
講 読	E 111	菅 原	E 211	武 本	E 311	武 本
	E 112	宮 岡	E 212	菅 原	E 312	菅 原
	E 113	武 本	E 213	宮 岡	E 313	ウォード
	E 114	宮 岡	E 214	菅 原		
	E 115	武 本	E 215	宮 岡		
			E 216	ウエンガー		
			E 217	ウエンガー		
会 話 文	E121(AB)	ウォード				
	E122(AB)	ウォード				
	E123(AB)	ウォード				

### 英語 I

#### ・E 101 教授 脇 田 勇

テキスト: Somerset Maugham. *The Mixture as Before*. 後藤武士編注  
英宝社 ¥330

#### ・E 102 助教授 永 原 和 夫

テキスト: 西村編, *American Accent*. 南雲堂 ¥850

#### ・E 103 教授 脇 田 勇

テキスト: Somerset Maugham. *The Mixture as Before*. 後藤武士編注  
英宝社 ¥330

◦ E 104 講師 君 羅 久 則

テキスト：T. Hardy. *The Withered Arm and Three Strangers*. 英宝社  
¥380

T. Hardy. *A Tradition of Eighteen Hundred and Four and  
Other Stories*. 英宝社 ¥420

◦ E 105 助教授 永 原 和 夫

テキスト：西村編, *American Accent*. 南雲堂 ¥850

◦ E 111 助教授 菅 原 光 穂

テキスト：W. Mare. *The Book of the Creation*. 朝日出版 ¥300

◦ E 112 助教授 宮 岡 伯 人

テキスト：J. Kirkup. *I Remember Japan*. 朝日出版

◦ E 113 教授 武 本 昌 三

テキスト：Mario Pei. *The American Heritage*. 成美堂

Reading と Hearing の練習に重点を置く，試験は，授業中の小テストを除いて年4行なり。欠席が $\frac{1}{3}$ を越える場合には，原則として単位を与えない。

◦ E 114 助教授 宮 岡 伯 人

テキスト：G. H. Gibson. *Toward Wider Horizons*. 研究社

◦ E 115 教授 武 本 昌 三

テキスト：Mario Pei. *The American Heritage*. 成美堂

Reading と Hearing の練習に重点を置く。試験は，授業中の小テストを除いて年4回行なり。欠席が $\frac{1}{3}$ を越える場合には，原則として単位を与えない。

◦ E 121 (A & B), E 122 (A & B), E 123 (A & B)

外国人教師 Richard O. Ward

This is a class in the oral study of English. Each week the student will be required to attend the Language Laboratory for study of the week's lesson. In class periods, the work will focus on oral practice and on material from the textbook *Intensive Course in English (Part Two)*. There will be a mid-year and final examination, and many dictation quizzes as well. Attendance in Language Laboratory and in class meetings will be an important part of the student's grade, as will be the student's oral contributions in class. Attendance will be taken each week (both in class and in the Language Laboratory), and any student who misses more than seven classes will not receive a passing grade.

英 語 Ⅱ

◦ E 201 講師 君 羅 久 則

テキスト：T. Williams. *Sweet Bird of Youth and Other Plays*. 英潮社  
¥980

◦ E 202 助教授 永 原 和 夫

テキスト：F. Scott Fitzgerald. *The Great Gatsby*. 英潮社  
ペンギンブックス ¥600

◦ E 203 外国人教師 Richard O. Ward

The class will concentrate on the works of Ernest Hemingway, and the two required texts will be *The Short Happy Life of Francis Macomber* (Short stories) and *The Old Man and the Sea* (novel). Examinations will be essay-type, and there will be many quizzes on the weekly reading assignments. Oral contributions in class will

be important and attendance will be taken in each class meeting. Any student who misses more than seven classes will not receive a passing grade.

◦ E 204 講師 君 羅 久 則

テキスト : T. Williams. *Sweet Bird of Youth and Other Plays.* 英潮社  
¥980

◦ E 205 助教授 永 原 和 夫

テキスト : F. Scott Fitzgerald. *The Great Gatsby.* 英潮社  
ペンギンブックス ¥600

◦ E 206 外国人教師 Richard O. Ward

The class will concentrate on the works of Ernest Hemingway, and the two required texts will be *The Short Happy Life of Francis Macomber* (short stories) and *The Old Man and the Sea* (novel). Examinations will be essay-type, and there will be many quizzes on the weekly reading assignments. Oral contributions in class will be important and attendance will be taken in each class meeting. Any student who misses more than seven classes will not receive a passing grade.

◦ E 211 教授 武 本 昌 三

テキスト : [前期] James Kirkup, *I Remember Japan* 朝日出版社

[後期] James Reston, *China and New World Order* 文理

イギリスの詩人とアメリカのジャーナリストの、それぞれに style の異なる英語表現に検討を加えながら、批判的に読んでいきたい。

試験は、授業中の小テストを除いて、年4回行なう。欠席が $\frac{1}{3}$ を越える場合は原則として単位は与えない。

◦ E 212 助教授 菅 原 光 穂

テキスト : *English Hearing Practice* 英宝社 ¥560

◦ E 213 助教授 宮 岡 伯 人

テキスト : E. Sapir. *Culture, Language and Personality: Selected Essays* (Univ. of California Press)

◦ E 214 助教授 菅 原 光 穂

テキスト : L. Barnett. *The Treasure of Our Tongue.* 松柏社 ¥220

◦ E 215 助教授 宮 岡 伯 人

テキスト : E. Sapir. *Culture, Language and Personality: Selected Essays* (Univ. of California Press).

◦ E 216 外国人講師 James Wenger

テキスト : Eugene Nida. *Customs and Cultures* 朝日出版 ¥290

This course will focus on cultural diversity as it is found in many societies of the world. A maximum of student participation in operating the course and in discussion is hoped for. Students will be required to attend at least two thirds (2/3) of all classes. No grade will be given for students not attending class. Periodic writing assignments and tests will also be given.

◦ E 217 外国人講師 James Wenger

テキスト : *What's Happening? Series I*

*What's Happening on Campus?* 文理 ¥400

This course will focus on the American campus during the height of the so called "protest movement" during the late 1960's. Some of the issues surrounding this movement will form the focus for

discussion in this course. Students will be required to attend at least two thirds (2/3) of all classes. No grade will be given for students not attending class. Periodic writing assignments and tests will also be given.

### 英語 III

◦ E 301 講師 君 羅 久 則

テキスト : W. Shakespeare: *Romeo and Juliet*. 研究社 ¥900  
(参考書) C. T. Onions: *A Shakespeare Glossary* (Kinokuniya Reprint, ¥520)  
大塚高信 「シェクスピア手帳」 研究社 ¥230

◦ E 302 教授 脇 田 勇

テキスト : Somerset Maugham. *Of Human Bondage*. 後藤武士注解  
英潮社ペンギンブックス ¥1,120

◦ E 303 外国人教師 Richard O. Ward

The textbook for the course is E. M. Forster's *A Passage to India*; it is a difficult and lengthy book, and students in this class must be prepared to spend much time in its study. Japanese notes and explanatory material, however, are available. The class itself will be taught entirely in English and oral contributions by students will be important. Attendance will be taken in each class meeting, and any student who misses more than seven classes will not receive a passing grade.

◦ E 311 教授 武 本 昌 三

テキスト : *Newspaper English* by T. Yasuda 朝日出版  
新聞英語の特徴を理解し, 速く読むだけでなく, 内容についての英問英

答, 英作文も併せて行なう。Practice を重視し, 英作文形式の小テストもひんばんに行なうので, 予復復習に十分な時間を割くことが出来ない者, 欠席しがちな者はこのクラスを選択しないでいただきたい。

◦ E 312 助教授 菅 原 光 穂

テキスト : John Lyons. *Chomsky*. Fontana / Collins ¥360

◦ E 313 外国人教師 Richard O. Ward

The textbook for this class will be *The Elements of Style*, as the class will be an in-depth study of writing and writing techniques. The class will concentrate on the various forms of creative writing (short stories, poetry, and plays), and a considerable quantity of writing will be required of each student. Interesting examples of student writing will be distributed in class, and much of the class time will be devoted to discussions of these student writings. Oral contributions by students will be important. Attendance will be taken in each class meeting, and any student who misses more than seven classes will not receive a passing grade.

### ドイツ語 I・II

講師 小 野 光 代

外国人講師 Jobst Mathias Spannagel

(北海道大学文学部外国人教師)

非常勤講師 津 川 良 太

(北海道大学文学部講師)

「大学における外国語教育の理念について」という文章からその一部を引用する。「大学における外国語教育は, 個々の外国語習得の過程を通じ, 究極的には言語と人間の関わり合いを, 学習者に主体的に意識化させることを目指す教育である。」はっきり云って, この理念は理想的すぎる。我々が現実に接するのは, 一つの外国語のごく初歩の段階である。言語と人間の関わり

り合い、などという場合のように言語を抽象的にとらえ、研究対象をして言語を理論的に扱うことができる前に、まずその言語を実際に習得しなければならない。母国語以外の一つの言葉を知るといことは決して容易ではない。新しい外国語を始めるといことは、大学という場におよそ似つかわしくない卒気くさい作業である。何故なら、外国語の習得には、地味に続けるという以外に方法がないからである。勿論習得の程度の差によって異なるが、一つの外国語がある水準まで出来るようになるには、どうしても一定の労力と時間が必要である。比較的短時間に言葉を覚える人もたしかにいる。しかしそれを可能にするものは、多くの場合何か特別な語学の才能などというものではなくて、集中して(時間的にばかりでなく)語学をやる能力であることが多い。若しその集中度を普通の人のそれに換算するなら、やはり一定の時間はかかることになるであろう。一つの言語体系の中で、全ての文は、その背後に具体的な生成の場を持っている。といことは、あらゆる言葉は、生きている人間によって実際に発言されたものである、といことである。勿論書かれただけの言葉もある。しかしそれも、人間によって具体的な思考を伝達するために生み出されたものであることには、かわりない。外国語の習得に一定の時間が必要なものは、まさに、全ての文が具体的な背景を持っているからに外ならない。母国語の場合には、意識することもない、自明なことを、外国語においては、いちいち、あらためて学習して行かなければならないのである。極言すれば、その数は無限とも云えよう。しかし言葉を全て、その具体的な場で習得することが不可能であり、また不必要であることも明らかである。そのために文法がある。従って我々は、特に成人してから外国語を始める者は、まず文法を学ぶ。文法はよく整理されているから、多少は大学生向きのような感がしないこともない。それだけに、文法だけでは絶対足りない。ことに、時間数の少い大学の授業用に作られた簡単な文法書では、文法といってもごく初歩の段階しか学べない。また言葉の音声面を無視しての外国語の学習はありえない。音声と文字とは有機的につながっているから、一方だけを切り離して学ぶことはできない。例えば読めさえすればよい、というような場合でも、全く発音ができないようでは、読む能力にも明らかに限界がおかれてしまうのである。大学における外国語の授業は、時間不足、学生側の効率的な見地からのモチベーション、その欠如の他という種々な障害があって、現状ではきわめて不満足な状態であるといわざ

るを得ないが、それでも文法だけに片寄らない言葉の全面的な学習を目指して授業を行なって行きたいと思う。そのことにとって商大は、週2回の授業のうち1回はドイツ人講師によって担当されるという恵まれた条件にある。「言語教育は、すべての学問的思考に共通の基盤であり、従ってそれをになう外国語教育は、知的活動・知的遺産の継承発展の場である大学における教育の根幹の一つである。」という文頭の理念の続きは、理想的すぎるとはいえ、やはり正しいと考えられるのである。

☆ドイツ語そのものについては述べなかったが、一般教養のドイツ語は、大学における外国語教育の中でのみ位置づけられるからである。

☆最後に、ドイツ語を選択しようとする人達に「地味に続ける」という意味をよく自分で考えてみてほしい、と希望しておく。

#### 教科書

火曜日 独Ⅰ・Ⅱ (A, Bとも) (Spannagel/小野)

フォルダーヴェルベッケ/嶋屋: ドイツ語初級 郁文堂 700円

木曜日 Aクラス (津川)

独Ⅰ 「私はビルギッド」 朝日出版 前田敬作・小岸 昭共著

独Ⅱ 「現代ドイツ短文集」 南江堂出版 編注者・中条宗助  
Bクラス (小野)

独Ⅰ 川島淳夫: ドイツ文法の基礎 南江堂 480円

独Ⅱ 平尾浩三編: 無気味な箱 白水社 350円

#### フランス語

フランス語受講者は下記のクラス編成に従って受講すること、所属クラスは追って発表する。授業運営の都合上、所属クラスの変更は認められない。

火	フランス語Ⅰ A組 (目黒教授)	フランス語Ⅱ A組 (目黒教授)
	フランス語Ⅰ B組 (大賀講師)	フランス語Ⅱ B組 (大賀講師)
木	フランス語Ⅰ A組 (中山講師)	フランス語Ⅱ A組 (中山講師)
	フランス語Ⅰ B組 (目黒教授)	フランス語Ⅱ B組 (目黒教授)

フランス語Ⅰ (A・B組とも) 教授 目黒士門

用書 目黒士門編『フランス語・読本と会話』(白水社) ¥450

フランス語Ⅱ (A組) 教授 目黒士門

用書 丸山圭三郎編『やさしい中級フランス語』(第三書房) ¥450

フランス語Ⅱ (B組) 教授 目黒士門

用書 丸山圭三郎, ドミニク・パン共編『フランスの現代』(朝日出版社)  
¥450

フランス語Ⅰ・Ⅱ

非常勤講師 中山 毅  
(北海道大学文学部助教授)

非常勤講師 大賀 淳  
(武蔵女子短大助教授)

中国語Ⅰ

教授 川上久寿

テキスト: 文法・作文テキスト中国語の基礎 香坂順一・上野恵司・大内  
田三郎・尾崎実共著, 光生館 500円

辞典: 中日大辞典 愛知大学中日大辞典編纂処編

現代中日辞典増訂版 香坂・太田共著 光生館

中国語辞典 鐘ヶ江信光著 大学書林

岩波中国語辞典 倉石武四郎著 (説明はよいが, この辞典だけ  
では今後2カ年の使用に耐えない)

中国語Ⅱ

教授 川上久寿

1年次のテキストの残りから始める。

毛沢東 文芸講話 テキスト版 520円

毛沢東著作言語研究会編 発行所 満江紅 (東京都千代田区神田神保町  
3-15)

スペイン語Ⅰ

講師 寺崎英樹

文法を中心として, 基礎的語学力を養う。

教科書: 吉田秀太郎, 「基礎スペイン語文法」(白水社)

〃, 「スペイン語第一歩」(芸林書房)

大学へ入ったら, 勉強はしないあるいは, 予習はしないと決心しているむ  
きは選択しないことが望ましい。なお, 出席率が1/2に満たない者, および平  
常一度も課題をやらなかった者は, 特別に優秀であることが明らかでない限  
り (現在まで, その例はない), 原則として単位取得を認めない。

スペイン語Ⅱ

講師 寺崎英樹

実用的な能力, とりわけ日本人にもっとも欠けている読解力の養成を目的  
としながら, イスパノ文化について常識的なことがらを学習する。

教科書: 野間一正, 「スペイン語読本」(昨年度のつづき)

J.J.L. ソペニャ・小林一宏, 「スペイン——世紀から世紀へ——」  
(芸林書房)

後期には, この他, 雑読記事, 論文等を講読する。

出席等の制約については, スペイン語Ⅰの項に準じる。

ロシア語Ⅰ

教授 松本忠司

発音, 文法, 読解, 作文の基礎

テキスト: 和久利誓一著「入門ロシア語文法 (改訂版)」白水社刊。

ほかにロシア歌謡, 詩, 掌篇などのプリントを適時に配付する。

ロシア語Ⅱ

教授 松本忠司

前期には, 比較的平易な散文の読解と文法知識の整理に主眼をおく。

後期には, 高度な内容の文学作品の講読を中心とする。

### 3 保健体育科目

#### 体育実技 I・II

教授 杉 山 登  
助教授 藤 江 正  
非常勤講師 中 川 平 悟

#### I 体育実技の履修について

体育実技は必修科目であり、各自所定の時間に出席しなければならない。本学では1年目で毎週2時間(60時間)、2年目は前期・後期各2時間(30時間)を選択履修することになっている。

体育実技実施種目は、必修種目と選択種目とからなり、必修種目としては、1年目は水泳、スキー、トレーニング法の実際を行なう。2年目は水泳、スキーのいずれかを選択必修するものとする。また、選択種目としては下記のIIIにあげた5種目中より、1年目は1年間に2種目を選択履修し、2年目は1種目を選択履修するものとする。

#### II 必修実技種目とその内容

##### (1) 水 泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは極めて大切なことである。

実技内容としては、クロール、平泳、背泳、バタフライ、横泳、立泳、潜行、飛び込み、人工呼吸法等に関して実習する。指導段階として初級、中級、上級の3班に分け、初級班では1～2種目泳法修得と、25m泳を、中級班では3～4種目泳法修得と1年目で50m泳、2年目で100m泳を、また、上級班は履修すべき全種目の修得と1年目で100m泳、2年目で200m泳を、ある程度のスピードをもって泳げることを目標としている。実施期間に関しては6月下旬～7月上旬にかけて3週間(6時間)と、夏季休暇後1週間(2時間)で実施するが、詳しい日時については、おって掲示等により通知する。

##### (2) ス キ ー

直滑降、斜滑降系技術、プルーク系技術、シュテム・クリスチャニア、パラレル・クリスチャニア、ウェーデルン等について実習する。指導段階としては、初級、中級、上級の3班に分け、初級班では1年目で歩行、

滑走法、方向変換、転倒法、登行法等の初歩動作から直滑降、プルーク・ボーゲン等の基礎的滑降・回転技術を、2年目ではシュテム・クリスチャニア、中級班では1年目にシュテム・クリスチャニア、2年目でパラレル・クリスチャニア、上級班では1年目でパラレル・クリスチャニア、ウェーデルン、2年目で総合応用的な技術習得(ポール技術、深雪、プレ・ジャンプ)を目標としている。実施時期については、1月～2月にかけて4週間(8時間)実施する。

#### (3) トレーニング法とその実際

学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかることは極めて重要なことである。4月～5月の期間を体力づくりのため一般的トレーニング法、用具使用法、トレーニングのための処方の仕方等について実習し、自分で処方し、継続実施してゆくようにもってゆきたい。なお、体力の劣る者(体力診断テストの結果、判定でD・E級の者)に関しては5月以降も継続指導してゆきたい。

#### (4) 体力測定とその内容

反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体そらし、立位体前屈、踏み台昇降→体力診断テスト

50m走、ハンドボール投げ、懸垂腕屈伸、持久走(または強歩)→運動能力テスト

以上の種目であるが、全種目実施が望ましいが、都合により7～9種目程になることもある。体力測定実施時期については、第1回目は4月下旬～5月上旬、第2回目が6月中旬～7月上旬(トレーニング・グループのみ)、第3回目が10月下旬～11月上旬となっている。

体力の優劣を判定するには、文部省体育局のテスト判定基準により、総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが、自己の体力の現状を常に正しく把握しておくことが肝要である。

#### III 選択実技種目とその内容

バスケット・ボール、バレー・ボール、バドミントン、ピンポン、ソフトボールの5種目である。前期(5月～9月)、後期(10月～12月)の2期で異なった種目を1種目選択履修する。なお、人員等の関係から選択種目の変更をさせることもある。また、雨天の場合には体育館内で実施可能な種目に限定される。

## 体育講義 (1)

助教授 藤 江 正

### ◆トレーニング基礎理論

1. 現代生活と身体運動
2. 体力の概念と要素
3. トレーニングの意義と原則
4. トレーニング法の種類と内容
5. トレーニング処方仕方
6. トレーニングと栄養

〈注〉この講義は、5月上旬にする予定であるが、おって掲示等により通知する。

### ◆水泳基礎理論

教授 杉 山 登

1. 水泳と人間生活
2. 水泳の特性について
3. 水泳の原理について
4. 水泳安全管理について

〈注〉この講義に関しては、6月中旬にする予定であるが、おって掲示等により通知する。

### ◆スキー基礎理論

助教授 藤 江 正

1. スキー技術の推移
2. スキーの安全管理
3. 山岳スキーについて
4. スキー技術と体力

〈注〉この講義は、11月上旬にする予定であるが、おって掲示等により通知する。

## 体育講義 (2)

### ◆保 健

教授 森 岡 知 一

87頁に記載。

## 4 基礎教育科目

### 経済学概論

(前期) 教授 増 井 幸 夫

(後期) 教授 藤 井 栄 一

P. A. Samuelson, *Economics, an introductory analysis*, 8th ed. [reprint] を教科書として使用します。若干のゼミナールでは、経済学概論の履修を所属の条件にしているのので、入学年次において、単位を修得することが適当です。

### 商 学 概 論

教授 伊 藤 森 右 衛 門

第一章 序——「商」の概念と商学——

第二章 経済思想と商業の発達

第三章 商業形態と生産体制

第四章 商業組織と市場構造

第五章 マーケティングと消費者行動

註、参考文献等は講義中その都度示す。

### 管理科学概論

助教授 若 林 信 夫

管理科学 (Management Science) は他の多くの学科目と異なり、学問自体、歴史も浅く、その体系的なものは未完成のように思う。最近、Operations Research (OR) は Management Science の subset (部分集合) とみなされ、MS/OR として理解されるのが通説である。しかし、私の考えでは、商学部における管理科学 (概論) は、経済、経営事象に存在する管理の記述的かつ規範的諸側面に真正面から取り組むべきであり、従って、経済学、経営学そして数学の基礎的なものの考え方がまず修められねばならない。とはいえ、この科目は1年次が対象となっているので、実状に即して教授する予定で、そのためには MS/OR の強力な補助的 (時には中心的) 用具である電子計算機 (Computer) と論理を中心に話を進める。

森口繁一「JIS FÖRTRAN 入門 (上), (下)」東大出版会が自習の便になる。



## 数 学

助教授 白 川 基 寛

微積分の講義と演習をします。目標は、Ⅰ厳密な数学論理、Ⅱ専門科目に必要な計算力、です。昨年とほぼ同様の予定。本年度の教科書は、「微分積分学、改訂版、吉田洋一著、培風館、900円」。昨年の目次は、以下のようでした。「1, 2, 3, 4」(前期)は、高校数学Ⅲでかなりやっていますので、重複はさけ、厳密な基礎づけと新しい計算問題を対象とします。「5, 6, 7, 8」(後期)は、高校ではやっていない新しいことですが、専門科目にとって必要なことが多いので、力を入れて勉強して欲しい。数Ⅲ未履習者も理解できるように行ないます。

1. 準 備
  2. 導 函 数
  3. 不定積分
  4. 定 積 分 (特異積分と無限積分を含む)
  5. 偏 導 函 数 (斉次函数とオイラーの定理)
  6. 偏導函数の応用 (Taylor の定理の拡張, 極大と極小, 陰函数, ラグランジュの未定係数法)
  7. 常微分方程式 (同次形, 1次形, 完全微分形, 2階定数係数線型)
  8. 差分方程式 (1階定数係数線型)
- 尚, 昨年の教科書でいえば, 「導函数の応用, 定積分の応用, 無限級数, 2重積分」は, やりませんでした。

## 5 専門教育科目

### 統 計 学

教授 長谷部 亮一

1. 度数分布の分析
2. 関係の分析
3. 時系列の分析
4. 標本理論
5. 推定の理論
6. 検定の理論

使用テキスト：森田優三著『統計概論(新版)』日本評論社

### 数理統計学

教授 久次 智雄

「統計学」, 「応用数学(代数)」, および解析学の初等知識を前提として, 統計学の数理的側面について, 推測統計学を中心に, 関連する数理的な問題にふれながら, 講義を行なう。講義の底本としては, 森田優三著「統計数理入門」(日本評論社, 昭43)を用いるが, 前半部分は速度を早くして, 後半のとくにⅧ, Ⅸについては底本のかなりの補充を行なう。

講義内容(予定)

- I 集団の記述
- II 確 率
- III 確率変数
- IV 分布関数
- V 推 定
- VI 仮説の検定
- VII 分散分析
- VIII 多変量解析
- IX 時 系 列

(注) その他の参考書は講義の中で示す。

## 経済統計学

教授 長谷部 亮一

主として国民所得統計をとりあげるが、関連ある各種経済データの吟味、経済分析の統計的処理にも触れる。

1. 国民所得の概念と意義
2. 国民所得の計測方法
3. 国民所得の構成と変動
4. 国民経済計算の体系
5. 国民所得の国際比較
6. 国民所得の短期予測
7. 国民所得統計の応用

参考文献などは講義中に指示する。

## 経済原論

教授 藤井 栄一

参考文献。スティーグラール『価格の理論』(上, 下); フリードマン『価格理論』; アクリー『マクロ経済学』(上, 中, 下); M. Friedman, *Capitalism and Freedom*; DOSSO『線型計画と経済分析』; Patinkin, *Interest, Money, and Prices*; B. ハンセン『現代の経済理論』; サルター『生産性と技術進歩』

講義の順序はつぎのとおりですが、大幅に自由な話題を中心に講義しますから、上記の図書を、できる範囲で、あらかじめ読んでおいて下さい。なお、章末の練習問題などにも、かなりの程度まで解答できるようになっていることが必要です。なお、とくに卒業予定年次の履修者に対しては、できるだけ頻繁に、随時、試験を行ないたいと考えていますが、一般に、履修者各自も、いろいろな問題に対して、きっちりとした考え方を持てるよう常時心掛けておいていただきたいものだと思います。

- I 価値(価格)論, II 分配論, III 貨幣(所得)論, IV 厚生経済学,
- V 経済成長論

## 経済変動論

教授 増井 幸夫

講義内容

- I 乗数過程

- II 加速度原理
- III 動的均衡過程
- IV 景気転換のメカニズム
- V 貨幣的要因
- VI 経済変動の統計的研究

テキスト: J. R. Hicks, *A Contribution to the Theory of the Trade Cycle*. (邦訳 古谷訳『景気循環論』岩波書店)

参考書: 藤野正三郎著『日本の景気変動』勁草書房, M. Friedman & Anna J. Schwartz, *Money and Business Cycles*, R. Econ. Stat. Vol. XLV No. 1 Part 2, R. A. Gordon and L. R. Klein, eds., *Readings in Business Cycles*, Allen & Unwin, 1966, etc.

## 経済学特殊問題

(前期) 非常勤講師 降旗 節 雄

(北海道大学経済学部教授)

### 一 講義の目標

マルクス経済学を、原理論・段階論・現在分析の三段階の構成にしたがって説明し、その方法的特殊性を明らかにすることを目標とする。

### 二 講義の編成

次の十項目を基本的内容とする。

(1)唯物史観と経済学, (2)資本主義社会の特殊性, (3)資本主義の世界史的発展段階, (4)価値法則, (5)恐慌と人口法則, (6)原理論体系としての『資本論』, (7)段階論としての帝国主義論, (8)現代資本主義論の方法, (9)科学とイデオロギー, (10)マルクス経済学における正統と異端

### 三 テキスト

降旗著『宇野理論の解明』(三一書房版)

### 四 参考書

マルクス『資本論』, ヒルファデーニング『金融資本論』, レーニン『帝国主義論』(以上どの訳本でも可)

宇野弘蔵著『経済原論』(岩波全書), 同『経済政策論』(弘文堂), 同『資本論の経済学』(岩波新書), 同『〈資本論〉の経済』(岩波書店), 同編『資本論研究・I~V』(筑摩書房), 同『帝国主義の研究・1~6』(青木

書店、但し刊行中)

降旗著『科学とイデオロギー』(青木書店), 同『帝国主義論の史的展開』(現代評論社)

## 経済史概論

助教授 井上 巽

経済史学の基礎理論を主としてイギリス・フランス・フランス・ドイツの史実を素材として論述する。講義内容は以下の如き編成の予定であるが、本年度は特に後半部分に力点を置きたいと考えている。

- I 課題と方法
- II 経済発展段階説
- III 封建制論
- IV 封建的危機論
- V 市民革命論
- VI 重商主義論
- VII 産業革命論

テキストは使用しない。参考文献はそのつど指示するが、さしあたり基礎的な文献としてマルクス『資本論』第1巻(特に10~13章, 23, 24章)および第3巻(特に20, 47章)をあげておく。その他、西洋経済史に関する包括的参考文献としては、大塚・高橋・松田編『西洋経済史講座』(岩波書店) I~IVがある。

## 日本経済史

助教授 長谷川伸三

本年度は日本の近代社会を根底から規定している日本資本主義の成立過程を中心のテーマとする。日本社会の独自の発展と、欧米資本主義の移植との結合のなかで、日本資本主義の特質がどのように形成されてきたかという点に理解を深めてほしい。なお政治過程との関連を重視するとともに、研究史上の論点にも触れていきたい。

1. 幕藩体制社会の特質
2. 幕藩体制の解体過程(1) 享保改革~寛政改革
3. 幕藩体制の解体過程(2) 天保期~開国
4. 明治維新の政治過程と経済構造

5. 本源的蓄積過程と自由民権運動

6. 産業革命と産業資本の確立

(主要参考書)

永原慶二編「日本経済史」(有斐閣双書) 有斐閣 650円

山口啓二・佐々木潤之介著「幕藩体制」(体系・日本歴史) 日本評論社 1,000円

田中 彰著「明治国家」(体系・日本歴史) 日本評論社 580円

歴史学研究会・日本史研究会編「講座日本歴史」東大出版会 各480円

4. 幕藩制社会 5. 明治維新 6. 日本帝国主義の形成

楫西光速他著「日本資本主義の成立」全2冊(東大新書) 東大出版会 各380円

歴史学研究会編「明治維新史研究講座」全6巻・別巻1 平凡社 各650円, 別巻500円

藤原 彰他編「近代日本史の基礎知識」有斐閣 1,300円

## 農業経済学

非常勤講師 崎浦誠治

(北海道大学農学部教授)

応用経済学としての農業経済学は、純粹競争的産業を対象とするゆえに、実証的分野においてすぐれたアプローチが可能であり、また豊富な成果を有する。この講義では比較的新らしい成果に依拠しつつ、特に食糧経済と労働力の農外流出=資源移動に重点をおくと共に、市場機構が資源配分、所得配分に不十分にしかはたらかないことから生起する問題に注目する。

第1章 農業経済学の方法と対象

第2章 経済成長と農業 ——わが国農業成長の諸局面を中心に——

第3章 農業・工業の二部門モデル

第4章 食糧需要

第5章 食糧生産

第6章 食糧の諸市場とマーケティング

第7章 農業金融

第8章 資源配分と所得配分

第9章 農業の技術進歩と市場組織

第10章 農業への公共政策

第11章 農産物貿易

第12章 現代社会と農業

## 社会政策

教授 吉武清彦

第一篇 社会政策史

第二篇 社会政策本質論

第三篇 社会政策各論

- 参考書 大河内一男 社会政策 (総論及び各論) 有斐閣  
 岸本英太郎 社会政策 (ミネルバ書房) 昭40年  
 隅谷三喜男 労働経済論 (筑摩書房) 昭45年  
 隅谷三喜男 労働経済論 (日本評論社) 昭40年  
 大河内一男 社会政策講義 (有信堂) 昭38年

## 国際経済論

助教授 池間誠

(1) なぜ貿易が行なわれるか, (2) どのようにして貿易は均衡するか, (3) 経済成長と貿易との関係とどのようなものか, これらのことについて講義してゆきたい。テキストは, 小島清『外国貿易 (4訂版)』(春秋社, 昭和48年), である。しかし, 必ずしもテキストにはとらわれない。したがって, 講義には出席せず, テキストを読んで試験を受けるだけでは, 単位取得は困難であることを付言しておきたい。

参考のために去年度の講義範囲を紹介しておきます。

第1章 序論

第2章 古典派の比較優位理論

第3章 ヘクシャー・オリーン定理

第4章 国際貿易の均衡

第5章 経済成長と貿易

第6章 生産要素の増加

第7章 関税と貿易

第8章 国際収支

第9章 外国貿易乗数

第10章 固定為替レート下での内外均衡(1)

第11章 固定為替レート下での内外均衡(2)

第12章 伸縮為替レート

第13章 内外均衡の達成 ——固定レートと伸縮レートの比較——

## 貿易政策

教授 麻田四郎

(1) 両大戦間の世界経済の動き

(2) 戦後世界経済 (ブレトン・ウッズ体制) の諸問題

(イ) 国際通貨体制

(ロ) 低開発国問題

(ハ) ガット体制の問題

## 国際金融論

教授 足立禎

最近の国際通貨問題は, も早や議論の段階ではなく, 現実に直面させられる問題として取り扱わなければならない状態になってきた。従って, 大銀行, 大商社, メーカーあるいは証券会社などの為替に対する関心は異状なものがある。

国際金融論は, 国際通貨制度や市場機構の研究だけではなく, 背後に政治的な駆け引きを含んだ非常に領域の広い学問であるが, その基礎をなすものは外国為替の理論, 特に先物為替の理論である。今日, 外国為替の理論を知らずして, 国際通貨の諸問題を論ずることはできない。

第1学期においては外国為替の理論を主として取り扱い, 第2学期においては, 第1学期において修得した知識を利用して現実に発生しているカレントな国際金融問題を研究し, 将来を展望する。

講義に当っては余り抽象的な理論に走らず, むしろ実際界との動きを中心として論じたい。

教科書 エゴン・ゾーメン著「先物為替の理論」 勁草書房, 足立禎訳

参考書 アイソツイヒ著 } 「先物為替の動態理論」 東洋経済新報社  
東銀為替部 訳

アイソツイヒ著 } 「平価切下げの要因」 文雅堂銀行研究社  
足立 禎 監訳 (heads and hags)

- ヒンショウ 編 } 「金価格と国際通貨」 東洋経済新報社  
 芦矢・足立共訳 }  
 足立 禎 著 「新外国為替論序説」 外国為替貿易研究会  
 足立 禎 著 「新しい先物為替の実務」 外国為替貿易研究会

## 金融経済論

助教授 漆 崎 健 治

今年度は、テキストを中心に、貨幣経済理論の学説史的展開を行ない、貨幣的要因が経済の実物面に対してもつ作用を主要テーマとして講義するとともに、新しい金融理論と取り組み、それとの関連で金融（金融資産・金融機関・金融市場）の意義や経済的效果を考える。

### 序 論

- I 古典学派の貨幣経済理論
- II ケインズおよびケインズ以後の貨幣経済理論
- III 資産選択理論 ——不確実性下の金融行動の原理——
- IV 金融技術の革新とその経済的效果
- V 資産保有者（家計・企業・金融機関）の金融的行動
- VI 金融政策の有効性

### 使用テキスト

B. J. ムアー（前田新太郎・漆崎健治訳）『現代金融論入門』上巻（第三出版）昭46

### 参考文献

- J. ヒックス（江沢太一・鬼木甫訳）『貨幣理論』東洋経済  
 G. H. ジョンソン（村上敦訳）『貨幣、貿易、経済成長』ダイヤモンド社  
 L. K. クライン（篠原三代平・宮沢健一訳）『ケインズ革命』有斐閣  
 D. パティンキン（貞木展生訳）『貨幣・利子および価格』勁草書房  
 J. G. ガーレイ, E. S. ショウ（桜井欣一郎訳）『貨幣と金融』  
 館竜一郎・浜田宏一『金融』現代経済学6, 岩波書店  
 水野正一・山下邦男監訳『現代の金融理論』I・II, 勁草書房

## 銀行論

助教授 漆 崎 健 治

- I 商業信用と銀行信用

- II 発券銀行と銀行券発行制度
- III 預金銀行と預金貨幣の一般的流通
- IV 信用創造と銀行の貸出行動
- V 銀行の資産選択
- VI 銀行流動性理論

### 主な参考文献

- A. G. ハート, P. ケネン, 吉野昌甫, 山下邦男訳, 『現代金融論』, 日本評論社  
 樋口午郎『銀行理論』東洋経済新報社  
 川合一郎『資本と信用——金融経済論序説——』  
 川口慎二『銀行流動性論』千倉書房  
 鈴木淑夫『金融政策の効果——銀行行動の理論と計測——』東洋経済新報社

## マーケティング

非常勤講師 片 桐 誠 士

（小樽商科大学短期大学助教授）

### 序 マーケティング論の課題, 対象と方法

- I マーケティングの成立過程
  1. 資本制商品流通と商業資本
  2. 商業資本自立化の根拠
  3. 独占の成立と商品流通の変質
  4. 商業資本の排除と社会的流通費用
- II マーケティングの成立と展開
  1. マーケティングの成立
  2. マーケティングの展開
  3. マネジリアル・マーケティングの特質
- III 現代マーケティングの構造
  1. 競争構造とマーケティング
  2. 現代マーケティングの戦略構造
  3. 現代マーケティングの戦略構造とマーケティング組織構造

### 参考文献

荒川祐吉・森下二次世編著

体系マーケティング・マネジメント 千倉書房

片岡一郎他共著 現代マーケティング総論 同文館

三浦 信著 マーケティングの構造 ミネルヴァ書房

田村正紀著 マーケティング行動体系論 千倉書房

## 商業英語

非常勤講師 北村正司

(小樽商科大学短期大学部教授)

外国貿易の流れを体系的に展開し、貿易実務と英語商業通信文を統一的に講述し、実務に関する基礎的な知識の習得と貿易英語の読解および表現力の涵養をはかりたい。

1. 英語商業通信文の構成と形式
2. 取引関係の樹立
3. 売買契約の成立
4. 売買契約の履行
5. 国際電報と国際テレックス

テキスト

1. 羽田三郎著「英文貿易通信入門」(関書院新社) ¥400
2. 「英文貿易通信問題集」(プリント)

## 保険論

助教授 田村祐一郎

I 全般的テーマとして、「近代保険は、資本主義の保険である」との命題を設定し、これを追求してゆく。

まず、伝統的保険学のうち、主要な学説二、三をとりあげ検討・批判することによりその性格を明らかにし、あわせて保険の基本的構造を概説する。次に、保険生成史を比較的詳細に講述し、近代保険の歴史的性格をのべる。尚、時間が許すなら、日本保険業の経営史的考察を試みたい。最後に、現代の保険企業の行動を、市場の性格・構造など、また金融機関的行動の問題と関連させて論ずる。

II かつて保険論をもって「集合科学」とする主張が行なわれていた。その当否は別としても、保険なる社会的・経済的現象を理解するには、巾広い

知識を必要とする。とりわけ、近代保険は、数学と法律によって武装されているといわれる如く、(保険)数学および商法に関する基本的理解が不可欠である。その他、経済史等の知識が必要であるが、それらは、受講者がすでに学んでいる、もしくは自発的に学ぶものとの前提に立って、講義を進めてゆく。

III この講義を保険「概論」として展開する意図はない。したがって、開講前にもしくは開講後短期間のうちにその類の文献を読了しておくことが望ましい。主要な参考文献は、開講時に説明するとして、ここでは、次の2冊をあげておく。

白杉三郎『保険学総論』(千倉書房)

近藤文二編『保険の基礎理論』(同上)

尚、個々の問題に関する文献は、その都度指示する。

## 証券市場論

助教授 石原定和

序 証券市場論の研究対象と研究方法

金融資本の体系における信用制度の役割は何かということ、すなわちその体系のなかに信用制度はどのような必然性をもって組み込まれているか、ということの解明。

——信用制度 → 擬制資本 → 株式会社 → 金融資本——

第1章 再生産と貨幣・信用

第2章 利子つき資本と信用制度

第3章 信用の現実形態としての商業信用・銀行信用

第4章 信用形態の新たなる展開——擬制資本信用

擬制資本の概念・擬制資本の運動・擬制資本価値、価格の形成と特質

第5章 出資と貸借関係を止揚した高次の資本集中形態としての株式会社  
資本集中と支配技術の発展・証券の流動化と独特な価格の成立

第6章 金融資本の発展と証券擬制資本運動の展開

創業者利得の本質・創業者利得論争・産業と銀行の融合の諸型態

## 証券金融論

教授 鈴木 満 直

証券金融を証券からみた金融と理解する。前半においては、日・米のマネー・フロー表の作成手順、およびマネー・フロー表をめぐる諸問題を取り上げ、後半においてマネー・フロー表の結果を分析するための理論および実証を講義する。

テキストは使用しない。参考者は必要に応じて指示する。

この授業科目を履修しようとする学生は、とくに経済学概論、統計学および財務管理を履修済、もしくは履修中であることが望ましい。

## 経営学原理

助教授 篠崎 恒 夫

### I 本科目の位置づけ

本科目は、現代企業経営の運動法則を客観的に解明することを目的とする。その際、現代企業を研究の対象としながらも、現実が過去の歴史の蓄積としてつねに過去に規定されている限り、経営学は歴史的発展法則の下に現実を認識することを必要とする。従って、諸君は経営学は商業実践の整序化にその生成の一端を求めるとともに、工業経営の管理の体系化が、一方における管理論的な内実を形成したことを学ぶであろう。

そこで本科目を学ぶに際しての手がかりとして、他の諸科目との相互関連を表わす意味で、既に履修していることが望ましい科目、及び同時履修を望む科目を挙げれば、つぎの諸科目である。

社会科学概論、社会思想史、商学概論、管理科学概論、経済史概論、経済学説史、経済学特殊問題、経営史、簿記学、マーケティング  
さらに本科目の履修者は、経営学説史、企業形態論、管理各論、会計学諸科目、商学諸科目といった諸領域へと発展の途を見出すであろう。

### II 講義方針

「経営」を学ぶに非ずして、「経営学」を学ぶのが諸君の目的である。経営学の研究対象は何か、それへの認識方法は如何にを考えながら、経営学が今日「総合科学」といわれるに至った所以を説く。

### III 構成

1. 経営学の本質と方法
2. 経営学の成立と展開

3. 経営学の基本法則
4. 経営形態・企業形態
5. 経営者論
6. 経営管理
7. 意志決定論
8. 企業の社会化

### IV 教科書・参考書

馬場克三著「経営経済学」税務経理協会 950円 を教科書として指定するが、内容はその通りには追わない。また、講義内容が経営学説史の展開を反映するので、副読本：経営学研究グループ「経営学史」亜紀書房 1,100円 を参照されたい。その他、講義に関連する文献は随時挙げるが、基本的なものうち、講入可能なものを以下に掲げる。

古林・三戸編「経営経済学本質論」(講座 現代経営経済学 I) 中央経済社 750円、山本安次郎「経営学本質論」森山書店 1,200円、岩尾裕純編著「講座経営理論 I・II」中央経済社 各1,800円、山本・田杉ほか編著「バーナードの経営理論」ダイヤモンド社 約2,500円、権泰吉「経営組織論の展開」ミネルヴァ書房 1,000円

### V 単位認定

本科目の単位認定は、レポートと試験による。レポートは、7月上旬にテーマを提示し、9月上旬に提出する。試験は後期に行なう。

経営学説史 (集中講義) 2単位 非常勤講師 中村 常次郎  
(中央大学商学部教授)

## 労務管理

教授 伊藤 森右衛門

Lectures on Personnel Administration

Lecture 1: Introduction: The Background and Development of Personnel Administration.

Lecture 2: Personnel Philosophy, Policy, and Function.

Lecture 3: Work Relationships and Organizational Behavior.

Lecture 4: Wage Policies and Wage Administration.

Lecture 5: Unions-Management Relationships  
—Collective Negotiation and Administration—  
Lecture 6: A Perspective of Personnel Administration.

## 財務管理

非常勤講師 坂井種次  
(札幌商科大学講師)

### ◎講義内容

1. 財務管理論の特質と課題
2. 資本構造論
3. 資本調達論
4. 資本運用論
5. 配当政策論
6. 財務計画論および財務管理組織論

現在の構想は上記のとおりですが、若干の変更があるかもしれません。

### ◎参考文献

- 河野豊弘「財務管理」(ダイヤモンド社)  
古川栄一「財務管理」(経林書房)  
丹波康太郎「財務管理概論」(有斐閣)  
E. ソロモン(別府訳)「財務管理論」(同文館出版)  
J. ウェストン他(諸井訳)「経営財務Ⅰ・Ⅱ」(東大出版会)

その他については、講義の進度に応じて紹介します。

## 簿記学

教授 久野光朗

### (1) 授業内容

最初の授業時間に授業計画と学習方法を説明し、あわせて参考書の紹介をしますが、授業内容は次のとおりです。

- §1 総論
- §2 貸借理論
- §3 勘定理論
- §4 帳簿組織論
- §5 決算理論

### (2) テキスト

沼田嘉穂, 「簿記教科書 8 訂版 (記帳練習帳を含む)」(同文館) ¥1,200

### (3) 参考書——現在入手可能なものに限定

片野一郎, 「簿記の手ほどき」(同文館)

片野一郎, 「新稿簿記精説」(同文館)

井上達雄, 「例解会計簿記精義」(白桃書房)

泉谷勝美, 「簿記学概論」(森山書店)

山榭忠恕, 「複式簿記通論」(中央経済社)

山榭・飯野・染谷共編「簿記原理」・「上級簿記」(有斐閣)

戸田義郎, 「簿記」(評論社)

黒沢 清, 「改訂簿記原理」(森山書店)

横浜市立大学会計学研究室編, 「大学簿記演習」(同文館)

阪本安一, 「改訂簿記詳説」(国元書房)

## 原価計算

教授 久野光朗

最初の講義をする際に授業計画に関して話をいたしますが、いちおう次の順序で進める予定です。

- §1 総論
- §2 実際原価計算
- §3 標準原価計算
- §4 原価差異の算定および分析
- §5 原価差異の会計処理

テキストは、とくに指定しませんが、各自でかならず大蔵省企業会計審議会、『原価計算基準』(中央経済社, 70円)を用意してください。なお、受講者は、原則として、簿記学の単位を取得済みであることを条件といたします。

最後に、現在入手できる標準的な参考書として下記のものあげておきます。

青木茂男, 『原価計算新稿』(中央経済社, 700円)

諸井勝之助, 『原価計算講義』(東京大学出版会, 560円)

山辺六郎, 『現代原価計算精説』(白桃書房, 1,500円)



- 松本雅男, 『原価計算』 (国元書房, 1,000円)  
 番場嘉一郎, 『原価計算論』 (中央経済社, 1,200円)  
 横浜市立大学会計学研究室編, 『新版原価計算事典』 (同文館出版,  
 750円)  
 太田・黒沢・佐藤・山下・番場監修, 『原価計算辞典』 (中央経済社,  
 3,500円)

## 会 計 学

教授 石河英夫

- I 会計学の概念
- II 会計学の本質・職能
- III 会計理論の展開
- IV 企業会計の基礎的前提
- V 企業会計原則の生成・発展
- VI 企業会計の一般原則
- VII 損益計算書原則
- VIII 貸借対照表原則

- 〔注〕 (1) 参考文献は講義の中で示す。  
 (2) 開講時に会計学を中心としたガイダンスを行なう。

## 監 査 論

教授 石河英夫

- I 序 説
- II 会計監査の概念
- III 会計監査の本質
- IV 会計監査の諸形態
- V イギリスにおける監査の発達
- VI ドイツにおける監査の発達
- VII アメリカにおける監査の発達
- VIII 投資家保護の監査
- IX わが国における監査制度
- X 監査基準
- XI 監査手続

## XII 監査報告

(注) 参考書は講義時にあげる。

## 外国書講読

非常勤講師 田中良三

(小樽商科大学短期大学部講師)

J.W. Buckley, *Contemporary Accounting and Its Environment* (Dickenson Publishing Co., 1969) のなかから下記の論文 (コピーして配付) を取上げて講読する。なお、一つの論文を読み終えたならばその論文の要旨をレポートにより提出してもらう。

R.J. Chambers, "The Role of Information system in Decision Making."

J. Dean, "Measurement of Profits for Executive Decisions."

P. A. Firmin and J. J. Linn, "Information Systems and Managerial Accounting."

J. C. Emery, "Economics of Information."

T. R. Prince, "The Motivational Assumption for Accounting Theory."

## 管理科学 I

助教授 若林信夫

応用数学で学んだ数学的ツールを現実の経済ならびに経営事象に適用することを主眼とする。テキストは D. ゲール『線型経済学』(和田・山谷訳) 紀伊国屋書店 (¥1,500) を使用する。線型計画, ゲームの理論, ネットワーク理論, 一般均衡理論, 数学的経済成長理論などのテーマについて輪読・演習を行なう予定である。

## 管理科学特講 I・IV

非常勤講師 浅利英吉

(東海大学講師)

管理科学特講 I・IV は近代の数理的経営管理に用いられるオペレーションズ・リサーチ (OR) など, "経営科学" とよばれている数学手法からいくつかを選び, その理論と実際について講義するものである。とくにオペレーションズ・リサーチは自然科学・人文科学を問わず広く用いられる境界領域

の学問であり技術であって、今日“システム工学”と呼ばれるものの基幹をもなしている。これは数理統計学、確率論を中心に、待ち合せ、在庫、取替、線形計画法、シミュレーション、動的計画法、ゲーム論、情報理論、実験計画法などと呼ばれて数多くの手法の集りをなし、それらはいわば色々な特徴を持った数学上の道具あるいは工作機械また測定機器に相当する。“待ち合せ”などの呼称は、それらが開発される端緒ないしはモデルとなった現象とか問題、あるいは用途などに因んで付けられたものである。ただし在来の理工学諸分野のようにまとまった理論体系を形成しているわけではなく、どの手法から学び始めてもよい。けれども、数理統計学履修の有無、理解の容易さ、用途、将来性などを考慮して、どれを講義するかを選択する。このとき、昭和47年度に特講Ⅱ・Ⅲで取り扱った手法はなるべく除きたい。特講Ⅰ・Ⅳ両者で計4種類ほどの手法をマスターさせることを目標としている。

## 機械化会計

助教授 山田一生

機械化会計とは、その言葉の通り理解すれば、機械化された会計を意味する。今日的には、EDP会計と呼ばれる研究領域を包摂するものと言えよう。この研究領域は、1966年のAAAの「基礎的会計理論」(A Statement of Basic Accounting Theory)の表明以来、伝統的会計理論に対する強烈なインパクトとして認識され、Accounting and Information Systemsあるいは情報システムとしての会計を指向する「会計情報システム」へと発展されるのである。

このような会計研究に関する学際的アプローチの結果、伝統的企業会計制度としての会計システムは、とくにコンピュータ・インパクトおよび情報科学の影響によって、新しく会計情報システムとして展開される。すなわち、会計情報システムは企業の経営管理に関して、(1)事後計算(報告的会計)、(2)現在計算(報告的会計)、(3)事前計算(予測的会計)のそれぞれの情報を提供し、経営意思決定に役立つ情報システムとなる。本講義では、David H. Li, Accounting Computers Management Information Systems, McGraw-Hill, 1968. に準拠しながら、(1)会計処理におけるコンピュータの位置づけ、(2)会計とコンピュータ・プランニング、(3)会計とコンピュータ・オペレーション、(4)会計とコンピュータライズドMIS、(5)コンピュータ時

代の会計として、その体系化をはかる意図をもつが、その準備的作業として、下記のテキストの使用により、情報システムの原理的ならびに実証的研究をはかり、会計情報システムの基本的設計を究明するとともに、さらに機械化会計の諸問題についても論述する。

テキスト：J. E. Ross 著(山田一生・鈴木幸毅訳)『現代経営のシステムと理論』〈日本経営出版会〉。

参考文献：参考文献は多数あるので、講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

## 応用数学(代数)

助教授 沼田久

管理科学の勉強を進めるために必要な線型代数学の入門および、時間があれば最近盛んになってきた組合わせ理論の初歩について講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線型不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線型代数が、数理計画法や経済学にどのように応用されているかを知ることなどに重点をおく。応用数学(解析)、計算機論とともに、管理科学科の学生は必ず履習することが望ましい。

高等学校的数学の得手、不得手とはあまり関係はないが若干の数学的センス(論理的能力と言ってもよい)または相当の根気が必要である。

教科書：未定。

参考書：授業中に指示する。

## 応用数学(解析)

非常勤講師 鈴木輝雄

(北海学園大学講師)

管理科学で使われる数学で、解析的性格をもつ部分について講義を行なう。予備知識として、微積分学の基本事項を前提とする。

1. 集合論
2. 複素関数
3. 特殊関数
4. 微分方程式
5. 差分方程式
6. フーリエ解析

## 応用数学 (統計 I)

助教授 清水川 緋紗子

テキスト：未定

参考書：森田優三「統計数理入門」

## 応用数学 特講 I

非常勤講師 山口 忠

(北海道大学工学部講師)

以下にあげる題材を中心に講義する。

1. 集合・関係・関数
2. ブール代数
3. 有限状態機械

## 応用数学 特講 II

非常勤講師 山口 忠

(北海道大学工学部講師)

以下にあげる題材について講義する。なお本科目は、応用数学特講 I (47年度でもよい) の知識を前提にする。

1. 形式言語理論
2. アルゴリズム

## 計算機論 I

助教授 樋口 透

## 計算機論 II

助教授 戸島 熙

OS を中心として、計算機の基本動作について解説する。

## 憲 法

非常勤講師 秋山 義昭

(小樽商科大学短期大学部助教授)

憲法は、一国の法体系の頂点に位置する最高法規であって、国家統治の基本的体制と権力行使の根拠、限界を定めたものである。しかし、憲法を理解するのに、条文を知ってこと足れりとすべきでない。むしろ、憲法自体の持つ価値原理、その下位法による具体化、政府・裁判所によるその解釈・適用

を通しての具体的運用を多面的に考察しなければならない。近時、憲法をめぐる論議が盛んであるが、上述のような角度から、現実のケースを素材として、憲法理解に努めることとしたい。

テキスト：伊藤正己「憲法入門」(有斐閣双書)

## 行 政 法

非常勤講師 秋山 義昭

(小樽商科大学短期大学部助教授)

「行政法」なる授業科目は、法学部以外の学生にとっては、聞き慣れぬ言葉であろう。言葉だけから受ける感じからすれば、政治を行なう法とか、せいぜい役人の執務心得を学ぶこと位を現像するのもかも知れない。形式的な法治国家の原理が支配していた明治憲法下の強力な官僚主義の下にあっては、その想像もあながち誤りでない。しかし、新憲法による憲法構造の根本的転換と、現代における行政機能の拡大化現象は、行政に特有な法としての行政法に、行政府の活動に対する民主的統制を期待することとなった。

従って、講義では、行政法の構造をはじめ、市民法原理との相違、裁判所による行政の司法的統制機能を、法理論的に、あるいは具体的ケースを通じて考察することになる。

テキスト：今村成和「行政法入門」(有斐閣双書)

## 労 働 法

助教授 加藤 俊平

1. 労働法の理論体系は、1. 労使関係論
  - ① 労働契約論
  - ② 労使団体法論
2. 労働争訟論 (労働委員会の救済手続を含む)
3. 社会保障論

に、一応区分される。本年度の講義は、1.①, 2を中心とする。3は法的な枠組にふれるにとどまろう。

2. 基本的な参考文献：石井照久：新版労働法 (弘文堂)、有泉亨編：基本判例——労働法 (一粒社)
3. 日本の労使関係には、講義でふれていくが、白井泰四郎：企別組合中公新書、藤田若雄：新版第二組合 (東大出版) を読んでおくこと。

経済法 (集中講義) 2単位 非常勤講師 富山康吉  
(大阪市立大学法学部助教授)

民法 I 助教授 神田孝夫

88頁に記載。

民法 II 非常勤講師 菅原勝伴  
(北海学園大学教授)

商法 I 講師 青竹正一

商法 I は主として会社法を対象とする。企業は各個人の独力でも経営できることはもちろんであるが、現今の主要な企業のほとんどが会社の形態をもって経営されていることは周知のところであって、近代の資本主義経済は会社の制度をはなれては考えられないといつてよい。この共同企業の典型的形態である会社に関する法規の総が会社法である。会社法(商法第二編「会社」の規定および有限会社法がその主要な内容をなくしている)は、企業経営の組織に関する法として企業法としての商法の一部に属する。そして、会社法は組織をめぐる個体間(会社・社員・会社債権者)の利益調整を行なうことを主たる任務とする。

講義は教科書に従って進めていくが、重要な点については判例をとりあげたり設問を提起して説明していく。履習者は予め教科書を読んでおくことが望ましい。六法は必携のこと。

教科書：鈴木竹雄著 新版会社法 弘文堂

参考書：西原寛一著 商法学(第二版・岩波全書)

新版会社判例百選(ジュリスト別冊)

その他については講義の初めに紹介する。

商法 II 非常勤講師 石原全  
(小樽商科大学短期大学部助教授)

本年度は、手形・小切手を講ずる。手形・小切手は当然の有価証券であり、権利が証券に化体し、証券の移転とともに権利も移転する。そこに、取

引の簡易決済手続性、流通性、技術的性格が濃厚に発現する。したがって、強行法性、取引安全の強調、種々の手形行為理論が存在するのである。本年は上記の点を念頭において全般的に講ずる。

国際機構論(後期) 助教授 大谷良雄

本年度の国際機構論は、欧州統合を目指して着実な前進をつづける欧州共同体(les Communautés européennes)を中心とした西ヨーロッパにおける国際組織の動向を論ずる。講義内容は次のとおり。

### I 序

1. 欧州統合の問題
2. 第2次大戦以後の西ヨーロッパにおける国際組織の発展

### II 国際協力を基礎とした政府間組織

1. 経済的国際協力組織
  - (i) 欧州経済協力機構及び欧州経済協力開発機構
  - (ii) 欧州自由貿易連合
2. 政治的及び軍事的国際組織
  - (i) 欧州審議会
  - (ii) 北大西洋条約機構
  - (iii) ワルシャワ条約機構

### III 超国家的国際組織——欧州共同体——

1. 欧州共同体の一般的性格
2. 欧州共同体諸機関の権限
  - (i) 執行機関(共同体委員会)
  - (ii) 決定機関(閣僚理事会)
  - (iii) 統御機関(欧州議会)
  - (iv) 司法機関(司法裁判所)
3. 欧州共同体の法構造
  - (i) 法源
    - (i) 明示的法源
    - (ii) 黙示的法源
  - (ii) 執行のメカニズム

- (iii) 他の法秩序との関係
  - (イ) 国際法との関係
  - (ロ) 国内法との関係
- (iv) 欧州共同体法の発展
- 4. 欧州共同体の機能
  - (i) 関税同盟
  - (ii) 人、役務、資本の自由移動
  - (iii) 共通政策
    - (イ) 共通農業政策
    - (ロ) 共通通商政策
- 5. 欧州共同体の対外関係
  - (i) 欧州共同体の法人格性
  - (ii) 加盟問題（とくに英国について）
  - (iii) 対外通商問題
    - (イ) GATTとの関係
    - (ロ) 米国との関係
    - (ハ) 日本との関係

## 6 教職科目

教育原理 教授 田中昭徳

（「教育学」のところを参照すること）

教育心理学（集中講義） 非常勤講師 藤野 武  
（北海道教育大学札幌分校教授）

商業科教育法 非常勤講師 渡辺羊三

- I 商業教育の概念
  - 1 商業教育の意義
  - 2 商業教育と他の教育
  - 3 商業教育の目的とその内容
  - 4 商業教育の目標
- II 商業教育の変遷
- III 商業教育と職業指導
- IV 商業教育の機関
- V 教育課程
  - 1 教育課程の基本原則とその編成
  - 2 商業教育課程の編成とその変遷
- VI 商業に関する教科目
  - 類型制と小学科制（情報処理教育）
- VII 学習指導法
  - 1 学習指導の意義およびその類型
  - 2 商業科の学習指導
- VIII 評価
  - 1 評価の意義およびその目的
  - 2 商業科における評価の実際
- IX 商業教育の施設・設備

参考書：武市春男 新版商業教育論 国元書房

初又才次郎	高等学校商業科教育法	理想社
奥村恒夫	新訂商業教科教育法	大明堂
大埜隆治	高等学校商業教育論	市ヶ谷出版社
文部省	高等学校学習指導要領解説 (商業編)	一橋出版KK
文部省	改訂高等学校学習指導要領	大蔵省印刷局

**教育実習** (集中講義) 2単位

教授	麻田四郎
教授	伊藤森右衛門
教授	久野光朗

**教育史** 教授 田中昭徳

題目「日本における商業教育制度の発展とその思想」(その1)

- I 封建徳川時代における商人とその教育
  - (1) 儒教道徳における「商業蔑視」の思想
  - (2) 石門心学と「商業肯定」思想の展開
- II 明治絶対主義的政権と帝国主義的「商業戦争」に対するその施策
  - (1) 福沢諭吉、森有礼の「商業立国」論
  - (2) A. A. シャンドと日本銀行学局
  - (3) 矢野二郎と商法講習所
  - (4) 井上毅文相と商業教育振興計画
  - (5) 佐野善作と「商業大学」論——東京商科大学の成立——

この題目についての講義は2カ年計画で行なう予定である。まず、本年度は徳川時代より明治時代までを取り扱い、次年度は大正時代より昭和38年の「人的能力政策」の策定までについて考察する筈である。本講義においては、「商業学」なるものが商業学校の成立によって形成され、「商学」が「商科大学」の成立によって樹立される経緯について特に詳しく分析したいと考える。だが「商業教育および商業高等教育」の国策的振興は、一重に「帝国主義的商業戦争」の産物であり、それ故アメリカ合衆国、イギリス、ドイツ、オランダ、フランス等の商業教育政策および商業教育制度の発展を視野に入

れて、本邦のそれを比較史的視点から解明することにも考慮を払うつもりである。史料および文献については、講義中にその都度指示するが、受講者は差し当り石田梅岩著『都鄙問答』(岩波文庫 1077)を購入熟読のこと。

**職業指導** 非常勤講師 石井 茂  
(北海道教育大学教授)

1. 職業指導の問題所在——問題提起
2. 職業指導と進路指導
3. 職業と教養
4. 職業指導の史的考察
5. 職業指導の理論
6. 企業と教育
7. 経済計画と教育
8. 適性、心理学的諸検査
9. 職場の人間関係
10. 職業指導の実践をめぐる問題

**英語 (上級 I)** 教授 武本昌三

テキスト: Marckwardt & Quirk. *A Common Language*. 研究社  
アメリカ英語とイギリス英語の共通性や相違点などをこのテキストを中心にして学んで行きたい。  
テープによる hearing practice にも力を入れていくつもりである。

**英語 (上級 II)** 助教授 永原和夫

René Welleck & Austin Warren, *Theory of Literature*.  
現代文学研究の本質を問う名著の輪読。テキストには本学図書館所蔵の基本図書を使用できる。  
参考図書: William K. Wimsatt, JR. & Cleanth Books, *Literary Criticism: A Short History*, Routledge & Kegan Paul, London.

## 英語学 (I)

助教授 宮岡 伯人

音韻論 (音声学を含む) の概説。教科書, 参考文献の指示は教室で行ないますが, 開講時には下記を用意しておくこと。

B. シュービゲル (小泉訳) 音声学入門 (大修館)

## III 研究指導要項

### 麻田教官担当研究指導

- 1 研究主題: 国際経済理論および政策
- 2 指導要領: 第1年度……国際経済学の原書 (英語) の輪読, 原書読破力をつける。  
第2年度……個別テーマによる指導
- 3 使用テキストおよび参考書  
テキスト: B. O. Södersten, International Economics, 1970, Macmillan ¥2,990  
(テキストは一括購入する)
- 4 申し込みの条件: ① 経済学概論の履修済みの者。  
② 英語に自信のあるもの。
- 5 選考の方法: 英語による経済学の基礎知識および読書力のテストを行なう。
- 6 面接, テスト等の日時, 場所

### 足立教官担当研究指導

1. 研究主題  
国際金融にかんする諸問題……国際通貨制度, 国際金融・為替市場の実態および外国為替市場取引の理論と実際。
2. 指導要領
  - (イ) 全般……小樽商科大学の卒業生として恥かしくないだけの国際的視野と語学力をもつことに重点を置く。なお, この研究指導は在学中のみならず, 卒業後も, 実業界において必要に応じ, ケース・バイ・ケースで行なう。
  - (ロ) 3年次……国際金融の基礎理論と実際およびこれら諸問題にかんする語学力の養成。
  - (ハ) 4年次……個別的研究指導 (ユーロ・ダラー, 金問題, SDR, 先

物為替, 各国金融制度, 相場制度など) および卒業論文。

### 3. 使用テキスト

- (イ) 3年次……講義のはじまりに指示する。
- (ロ) 4年次……プリンストン大学の国際金融双書などを用いる。

### 4. 申し込み条件

- (イ) 語学力を有し, かつ
- (ロ) 将来国際企業で活躍したいと思う者。

### 5. 決定方法

簡単な語学テストおよび面接の上10名程度決定。

## 長谷部教官担当研究指導

### 1. 研究主題 日本経済の統計的分析

### 2. 指導要領

3年次 テキストの輪読

建元正弘・市村真一編

『リーディングス・日本経済の計量分析』

東洋経済新報社

4年次 前半はテキスト輪読に参加

後半は個別研究テーマによる報告

## 藤井教官担当研究指導

研究主題は理論経済学一般。卒業論文作成に最重点をおきますが, そのための経済学の常識, とくに経済分析の思考方法に慣れること, にまず中心の目的をおきます。初年度の学生に対しては, 一般にかなり重要だと判断されている論文や図書を読んできてもらって紹介し, 意見をのべていただきますが, この段階で卒論の具体的な作成にとりかかっています。卒業年次においては, 各自が, 資料を集めて, 卒論作成に専念していただきますが, 初年度で残した一般的な論文などについても, 併行して報告していただきます。(なお, 本年度の3年次生は, M. Morishima, *Marxian Economics* などを読む予定です。)

## 増井教官担当研究指導

### 1 研究主題

経済変動, 経済成長の過程の理論的・実証的分析

### 2 指導方針

全 般: 所得分配とくに賃金構造の長期的変化に関する実証的研究を中心とする個別研究テーマを卒論に結実させるよう努力する。

3年次: 基礎理論, 実証研究のレビューのための文献論読

4年次: 個別研究テーマの報告・討論

### 3 使用テキスト

分配論のレビュー用として, J. Pen, *Income Distribution*, M. Bronfenbrenner, *Income Distribution Theory*, を選択的に読むことから始める。

### 4 申し込み条件

経概, 原論, 統計学を履習済みのこと。

## 吉武教官担当研究指導

### 1 研究主題: 社会政策と工業経済をめぐる諸問題 (今年は特にマーシャル経済学をめぐり重点的に研究する。)

### 2 指導要項: (イ) 全 般

(ロ) 48年度: マーシャルの『経済学原理』の輪読及び卒論指導。

(ハ) 49年度: 下記テキストを第5編『需要供給及び価値の一般理論』又は第6編『国民所得の分配』から始める。

### 3 使用テキストおよび参考書: Alfred Marshall, *Principles of Economic* (Eighth ed.; London: Macmillan & Co. Ltd., 1964), Papermac (邦貨約1,900円)。

### 4 申し込みの条件: マーシャル『経済学原理』を昨年より引き続き読む。申し込みの条件として, 1) 英語の実力があること。2) 経済学概論



- の成績良好であること。3) 欠席せずに真面目に出席を続けること。
- 5 選考の方法：(1) 英語の試験を下記により行なう。  
(2) 上のテストの結果と経済学概論の成績を勘案して決定する。
- 6 面接テストの日時・場所：
- 7 その他：参加を認められた者であっても、将来無断欠席連続3回行なった場合、除名されることがありうる。

### 池間教官担当研究指導

- 1 研究主題：国際経済論一般。ただし制度論的ではなく、純理論的アプローチである。
- 2 指導要領：(イ) 全般：各国民経済が相互に依存しあっていることを理論的に認識し、それゆえ広い視野に立って物事を判断できるのを目的とする。  
(ロ) 48年度：英語のテキストを読む  
(ハ) 49年度：卒論の指導
- 3 使用テキストおよび参考書  
未定（決定次第掲示で知らせる。）
- 4 申し込みの条件：3年次において国際経済論、貿易政策、国際金融論を履修すること。また2年次で経済原論を履修中の者。
- 5 選考の方法：簡単な英語のテスト及び面接
- 6 その他：3年次の前期においては、その都度指名していくので、きわめて hard training である。これに耐えうる精神力が必要であり、また積極性が要求される。無断で3回欠席すれば直ちに除名する。

### 井上教官担当研究指導

- 1 研究主題：西洋経済史研究。本年度のテーマは昨年度と同様に「19世紀末大不況期における各国資本主義の構造変化に関する研究」とする。
- 2 指導要領

- (イ) 全般：研究文献の厳密な読み方に習熟することは研究上の大前提であることを銘記されたい。学問的精神の堅持を期待する。
- (ロ) 3年次：19世紀末大不況期を画期とする世界経済の構造変化に関する研究文献を読む。使用テキストは S.B. Saul, *Studies in British Overseas Trade 1870-1914*. 参考文献は、ヒルファデング『金融資本論』、レーニン『帝国主義論』。その他の参考文献については後に指示する。
- (ハ) 4年次：前半は昨年度の継続。後半は卒業論文作成指導。
- (ニ) その他：卒業論文は早期に準備にとりかかるよう希望する。

### 漆崎教官担当研究指導

- 1 研究主題  
金融理論および貨幣経済理論
- 2 指導要領  
3年次：テキストを中心に報告および討論  
4年次：前半は英文文献の講読、後半は卒論テーマに沿って個別報告
- 3 使用テキスト  
3年次：未定。  
4年次：M. Friedman, *A Theoretical Framework for Monetary Analysis*, 1971. NBER.
- 4 申し込みの条件  
原則として経済学概論を履習済みであること。
- 5 所属決定の方法  
面接およびテストによる。

### 長谷川教官担当研究指導

- 1 研究主題：日本経済史、とくに分析方法。
- 2 指導要領：まず前近代・近代通をしての経済史の分析方法を学んでいきたい。ついで日本資本主義発達史の具体的分析に進みたい。各自の研究（卒業論文）テーマは3年次生の終りまでに決めればよい。

日本近世・近代経済史なかから個別テーマを設定することが望ましい。

- 3 使用テキストおよび参考書：48年度テキスト 栗原百寿著『農業問題入門』（青木文庫，350円）。同参考書 芝原拓自著『所有と生産様式の歴史理論』（青木書店，1,000円）。48年度末～49年度前半 山田盛太郎著『日本資本主義分析』（岩波書店，600円）または楳西光速編『日本経済史大系・近代』上・下巻（東京大学出版会，各900円）の予定。以後は適当なテーマに則した論文・史料の講読を行なう。
- 4 関連科目：「経済史概論」，「日本経済史」。その他「歴史学」「経済学特殊問題」「社会思想史」など。なお，マルクス主義経済学の基礎および日本近世・近代史の基本的知識を各自適当な書物で学んでおいてほしい。
- 5 選考方法：本年度は簡単な論文テストを行なった。研究・ゼミへの熱意が第一条件である。
- 6 その他：なお2年間に一度は実習旅行（できれば道外への1週間以内の史料調査・見学等）を行ないたい。多少費用のかかることを考慮しておいてほしい。

### 松田教官担当研究指導

### 伊藤教官担当研究指導

1. 研究主題  
トップ・マネジメントについて基礎的・理論的な研究を行なう。
2. 指導要領
  - イ. 全般
    - (1) テキスト（英文）の講読
    - (2) テーマ別の報告およびディスカッション
    - (3) 実施研修
  - ロ. 使用テキスト

- (1) 4年次  
引きつづき“Organizations: Theory and Concept”を使用する。

後期は主として卒論作成指導。

- (2) 3年次  
F. E. Kast and J. E. Rosenzweig: Organization and Management; A System Approach”を講読する。

### 久野教官担当研究指導

- 研究主題  
会計学（簿記学をふくむ） 参考までにいえば，小生自身は会計原則構造論，簿記・会計発達史，勘定理論，貨幣価値変動会計，経営分析…の分野に関心をもっています。
- 指導方針  
全般：会計に関する基本的知識を与え，かつ応用能力を養なう。  
3年次：わが国の「企業会計原則」の批判的研究と外書講読を中心にして基礎理論を修得させる。  
4年次：卒業論文の指導，各人の発表をもとにして討論を行なう。  
なお，論文提出後，オーラル・クエスチョンをし，かつ，下級生のために卒論発表会を催す。
- 3年次使用テキスト  
John W. Buckley (ed.), *Contemporary Accounting and Its Environment* (Belmont, California, Dickenson Publishing Company, Inc., 1969), pp. XI+445.
- その他  
熱心にゼミへ参加し，活発に討論をし，ゼミをもりたてていくことを望む。

### 斉藤教官担当研究指導

1. 研究主題  
商品の使用価値を中心とした価値並びにマーケティング時代における

商品の社会的価値を品質要因・価格要因・販売活動要因（広告など）と関連づけて追求する。

## 2. 指導要領

(イ) 全般：上記の主題に関する原書や論文を講読し、報告・討論を通じて理解を深める。

(ロ) 48年度：商品の価値と商品政策に関する入門書的な原書を講読し基本的知識の修得とその応用能力を養う。

(ハ) 49年度：個人テーマによる文献講読と卒業論文の指導。

## 3. 使用テキスト

L. Abbott: Quality and Competetion (1965)

飯島養郎等：品質基礎理論

その他、商品政策、商品マーケティングに関する参考書。

## 4. 申し込みの条件

ゼミナール参加希望者は、2年次終了時において語学（第1、第2外国語）及び基礎教育科目の所要単位を取得した者であること。

## 5. 決定の方法

テストおよび面接による。

## 鈴木教官担当研究指導

研究主題：金融論（国際金融も含む）

指導要項：3年次 報告

4年次 各自の選択にもとづいた卒論指導

テキスト：Harrod, R, Money.

Friedman, M, A Theoretical Framework for Monetary Analysis.

Halm, G, ed., Approaches to Greater Flexibility of Exchange Rates.

履修要件：出席を必要条件とする。

研究意欲のない学生は遠慮願いたい。

このゼミナールを希望する学生は、卒業までに、統計学、経済学概論および簿記学の単位を取得すること。

## 石原教官担当研究指導

### 1. 研究主題

金融・資本市場の研究

### 2. 指導要領

(イ) 上記分野にかんする基礎的文献の検討

(ロ) 48年度

貨幣の本質と機能・商業信用と銀行信用

(ハ) 49年度

(前期) 擬制資本信用の研究

(後期) 各自のテーマによる卒論の作成・報告

## 篠崎教官担当研究指導

### 1. 研究主題

経営組織の客観的批判的分析——特にサイモン組織論を媒介として。

### 2. 指導要領

(イ) 全般

企業経営の批判的分析を究極のテーマとして企業行動と管理組織が占める領域の問題の解明につとめる。具体的には、経営学の方法の反省を踏えながら経営学の基礎概念を構築し、現代組織論の批判的検討へと至る。

(ロ) 3年次

企業を資本運動として捉える視点を確立する。特に資本論の読解がその最初の作業となろう。併せて、経営学の基礎概念、経営組織論の学説史的展開を学ぶ。

(ハ) 4年次

各人が種々のアプローチからサイモン組織論を取上げ、全体として共同研究の成果を实らせるよう協議、指導する。度重なるレポートの作成、報告は、3年次から引継がれて、卒論へと至る。

### 3. 使用テキスト

サイモン著、松田ほか訳「経営行動」ダイヤモンド名著シリーズ

March & Simon, *Organizations*, Wiley, 1958. を中心とする。

#### 4. 履修指導

以下の諸科目の充実した習得が強く要求される。

社会科学概論, 社会思想史, 経済学説史, 経済史概論, 日本経済史,  
経済学特殊問題, 経営学原理, 経営史, 経営学説史, 企業形態論

### 田村教官担当研究指導

1. 研究主題: イギリスにおける近代保険の生成過程の経営史的研究
2. 指導要領:
  - イ) 自主的研究態度を尊重し, かつ要求する
  - ロ) 48年度: テキストの輪読
  - ハ) 49年度: テキストの輪読および個別テーマに関する報告と討論
3. 使用テキストおよび参考書:

Dickson, P.G.M., *The Sun Insurance Office, 1710-1960*.  
近藤文二編『保険の基礎理論』干倉書房, 昭和45年

### 和田教官担当研究指導

1. 研究主題: 労働精神衛生  
産業社会に出現する各種の行動障害を, 精神衛生的見地からアプローチする。また, 管理, 安全, 能率といった面からも精神障害の持つ問題を眺めることになろう。
2. 指導要領: 初年度は, 異常心理学上の知識の習得にあてられ, 卒業年次には学生各自の興味に従って個別的なテーマで研究が進められる。  
また, 精神病院, 児童相談所等の関係施設の見学を行なう。
3. 使用テキストおよび参考書:
  - 3年次 Rosen & Gyegory "Abnormal Psychology"
  - 4年次 各自のテーマに基づく関係諸論文。

### 清水川教官担当研究指導

テキスト: Des Raj, *Sampling Theory* 1968.

### 戸島教官担当研究指導

1. 研究主題: TSS の機能をもつ電子計算機の OS の開発。
2. 指導要領: 2年間で OKITAC-4500 用の OS をつくりあげる。最初に既存の OS を検討して設計を行ない, 外部仕様と内部仕様を明確にし, それらにしたがって開発作業をするめる。
3. 使用テキストおよび参考書: 必要に応じて内外の計算機の OS に関するマニュアルを参考にする。
4. その他: 開発のための OKITAC-4500 の利用は主として通常の利用の時間外に行なう。計算機論 I を受講していないと困難を感じるかもしれない。

### 沼田教官担当研究指導

1. 研究主題: つぎの2つの主題のうちいずれかを選択すること。
  - ① 組合わせ論 (Combinatorics): これは線型計画を始め, OR の分野で最近有用であることが認識されてきた数学の一分野であるが, 応用面には向わず, もっぱら数学的興味でのみ取扱う予定である。
  - ② 線型計画法: 数理計画の代表的手法である線型計画の理論を勉強する。線型代数の知識が必要である。
2. 指導要領:
  - イ, 全般: 論理的正確さと柔軟で偏見や先入観のない思考態度を養うことを目指す。
  - ロ, 48年度: 外国書を読み, 内容を正しく理解する訓練に重点をおく。
  - ハ, 49年度: できるだけ早期に卒論の準備にとりかかる。
3. 使用テキストおよび参考書
  - ① 組合わせ論テキスト:

Principles of Combinatorics, C. Berge, Academic Press 1971.

- ② 線型計画法テキスト：  
Linear Programming, G. Hadley, Addison-Wesley, 1962.
- ③ 線型計画法参考書：  
数理計画法 I, 古瀬大六, 共立出版, 1971

### 山田教官担当研究指導

1. 研究主題  
Management Information Systems ..... Management への Systems Approach に関する理論的ならびに実証的研究。
2. 指導要領
  - (イ) 全般：経営管理に役立つ情報システム設計のための基礎理論と応用能力の開発をはかり、明日の経営管理者あるいは未来の S.E. としての適応力を高めることを目標にする。
  - (ロ) 48年度：使用テキストに従い、輪読形式で討論をすすめる。
  - (ハ) 49年度：各自のテーマによる卒業論文の指導と完成。
3. 使用テキストおよび参考書
  - (イ) R.G. Mnr dick, J.E. Ross, Information Systems for Modern Management, Prentice-Hall, 1971.
  - (ロ) 横山保監訳「システムの理論とマネジメント」(日本生産性本部)。
  - (ハ) 参考書については多数あるので、その都度指示する。
4. 申し込のみ条件  
上記研究テーマに十分な関心を持ち、ゼミに皆出席すること。
5. 選考の方法(面接, テスト等)  
英語のテストと面接のうえ総合的に判断して決定する。

### 若林教官担当研究指導

1. 研究主題  
経済, 経営事象の定性的ならびに数量的解析の研究。環境破壊, インフレ, 過密過疎, 都市問題, 所得の不平等, 技術進歩等能率的な工程管理など。

現代の社会的経済的問題に対する管理科学 (MS/OR) 的研究。

2. 指導要領  
管理科学の Core には、私の考えでは、経済現象, 経営現象の体系的な把握が位置されるべきであって、そのためには、また、数学, 統計学, 計算機科学等を必要時に応じ活用できることも不可欠である。その点、管理工学や社会科学プロパーとは本質的に異なる。ゼミの方針としては、使用テキスト(英文)の精読を行なうことにより基本的なものの考え方, 論理のすすめ方を習得する。
3. 使用テキストおよび参考書
  - (1) Paul A. Samuelson, Foundations of Economic Analysis College Edition, Atheneum, N.Y. \$3.45 and / or.
  - (2) Kenneth J. Arrow, Social Choice and Individual Values, A Yale Paperbound, \$2.45.

### 加藤教官担当研究指導

1. 労働判例の研究およびアメリカ書講読  
労働裁判例を素材にして、わが国労働法の法理および労使関係を研究する。外書講読は、アメリカとわが国の労使関係を比較研究することに力点をおく。
2. テキスト：新版労働判例百選(ジュリスト別冊)および基本判例—労働法(一粒社) Chamberlain; Labor, 1958.
3. 3年次生・4年次生一緒におこなう。火曜日および木曜日。

### 神田教官担当研究指導

### 青竹教官担当研究指導

1. 研究主題：アメリカ会社法の研究
2. 指導要領
  - (イ) 全般：アメリカ会社法の概要を知り、わが国の会社法との比較法的

意義を考えていく。あわせて、英文を読む能力および会社法の具体的問題に対する研究の仕方・能力を養うことを目的とする。

(ロ) 48年度：アメリカ会社法の概要を述べた論文（原文）を輪読しながらわが国の会社法との比較検討をする。

(ハ) 49年度：輪読した論文の内容を各自まとめ、その中でわが国の会社法で問題となっているところをテーマにレポートしてもらう。

3. 使用テキストおよび参考書：上記の目的のために適切と思われるものを、英文については掲載誌からコピーして使用する。例えば、Corporations: Selected essays reprinted from the Harvard Law Review (Harvard Review Association, Cambridge, 1966) 所収の論文。

日本の文献については、適宜指摘する。

4. その他：商法Ⅰの講義は会社法を中心とするので必ず履習すること。

## 社会学

非常勤講師 三谷鉄夫

(北海道大学文学部助教授)

前半：『家族と地域社会』との関連をとらえて現在における社会変動の諸問題を取り扱う。

後半：『現代社会の諸相』をめぐって具体的には大衆社会、官僚性等の問題を主としてとりあげる。

## 保健・体育

教授 森岡知一

人間の身体の構造と機能の概略を講述し、健康の維持、増進の方法と疾病の予防又は発見に必要な医学常識について言及したい。特にテキストは使用しない。

## 計量経済学

助教授 松田芳郎

計量経済学というのは、例えば金融・財政・農業経済・工業経済学といった意味では、経済学の分科をなす学問ではなく、実証分析の際に経済の量的把握の仕方について、数式表現をした model 分析と統計的分析手法とを結びつけた、経済分析の手法に関する研究に他ならない。ただこの量的把握または数式表現ということにまだ多くの誤解が人びとの間に存在する。今年度は、隣接学問分野での開講科目が著しく充実したので、例年と異って特に計量経済学発達史という形でこの問題に接近して見ることにする。(いうまでもなく、ここでの発達史というのは Dogmengeschichte ではなく Methode-geschichte である)

I 序論 (経済学的認識の実証性の意味について)

II 計量経済学前史の問題点

- 1) 18世紀経済思想史上の問題
- 2) 19世紀実証主義の問題
- 3) 19世紀ヨーロッパラディカリズム

III 論理実証主義と計量経済学の形成

- 1) 論理実証主義
- 2) ナチズムの興隆とその影響

#### Ⅳ 第2次世界大戦後の計量経済学の発展

- 1) 混合経済体制と計量経済学
- 2) 分析手法の開発と問題
- 3) 計算機の発達と分析手法の変化

#### Ⅴ 残された問題点

参考文献：山田勇編「計量経済学講義」(青林書院新社)

Yoshiro Matsuda (ed.), *Works on Econometrics* (KWIC index series for social sciences) (近刊)

## 民法 I

助教授 神田孝夫

民法は資本主義経済体制をささえるもっとも基本的な法であり、数多くの重要な諸制度をもっているが、講義では、これらの諸制度の意義と機能がどこにあるのかを具体的に解明することに重点がおかれる。

なお、従来、本講義は本学での永い間の慣行を踏襲して民法典の第1編総則と第2編物権を主な対象としてきたが、本年は、これに従うことなく、財産法といわれる分野全体を一応の対象とし、そのなかで、もっとも重要と思われる部分を重点的にとりあげることにする。このように方針を変えた理由は、どういふわけか、かねて、ひきつづき民法Ⅱを履修しようとする学生が少ないからである。また、民法典の編成順序に従うつもりもない。これは、諸君の理解の便覧を考えてのことである。

教科書としては、次のものを用いる。我妻栄・民法大意(第2版)上巻、中巻・岩波書店。さしあたり、上巻を講入のこと。

参考書としては、遠藤浩ほか編「民法」(1)~(7)・有斐閣が手ごろだろう。本格的なものとしては、我妻栄「民法講義」全8冊・岩波書店がいい。判例の態度を知るには、甲斐道太郎ほか編「民法制例Ⅰ、Ⅱ」有斐閣が簡便である。なお、民法に限らず法律を学ぶには六法全書が必要不可欠である——外国語を学ぶのに辞典が必要であることと等しい——が、「小六法」有斐閣、

「基本六法」岩波書店が推奨できる。条文のコメント、判例などをつけ加えた六法も市販されているが、これはのぞましくない。自分で調べ、考えようとする態度をうばってしまうからである。蛇足ながら、かような六法は、試験の際に、持込みを認めないつもりでいる。